

7 健康の自己管理について

(1) 身長・体重・BMI

問31 あなたのおよその身長、体重を整数でお答えください。(小数点以下は四捨五入)

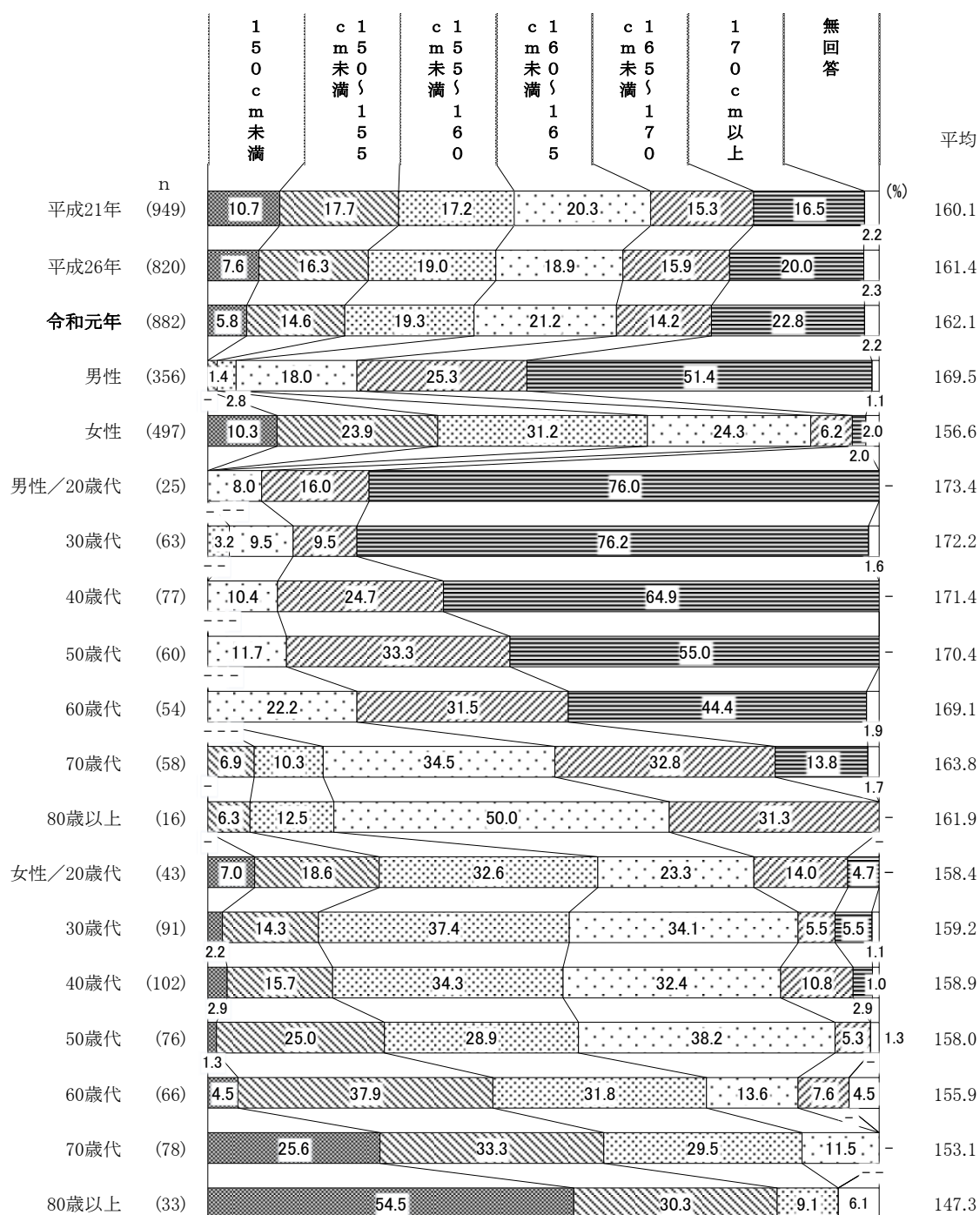
■身長

身長は、平均が162.1cmで、構成比は「155～160cm未満」が19.3%、「160～165cm未満」が21.2%などとなっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、男性の平均は169.5cmで、女性の平均は156.6cmとなっている。

性／年代別でみると、男性では、20歳代の平均が173.4cmと最も高く、20～50歳代で170cmを超えている。女性では、30歳代の平均が159.2cmと最も高くなっている。



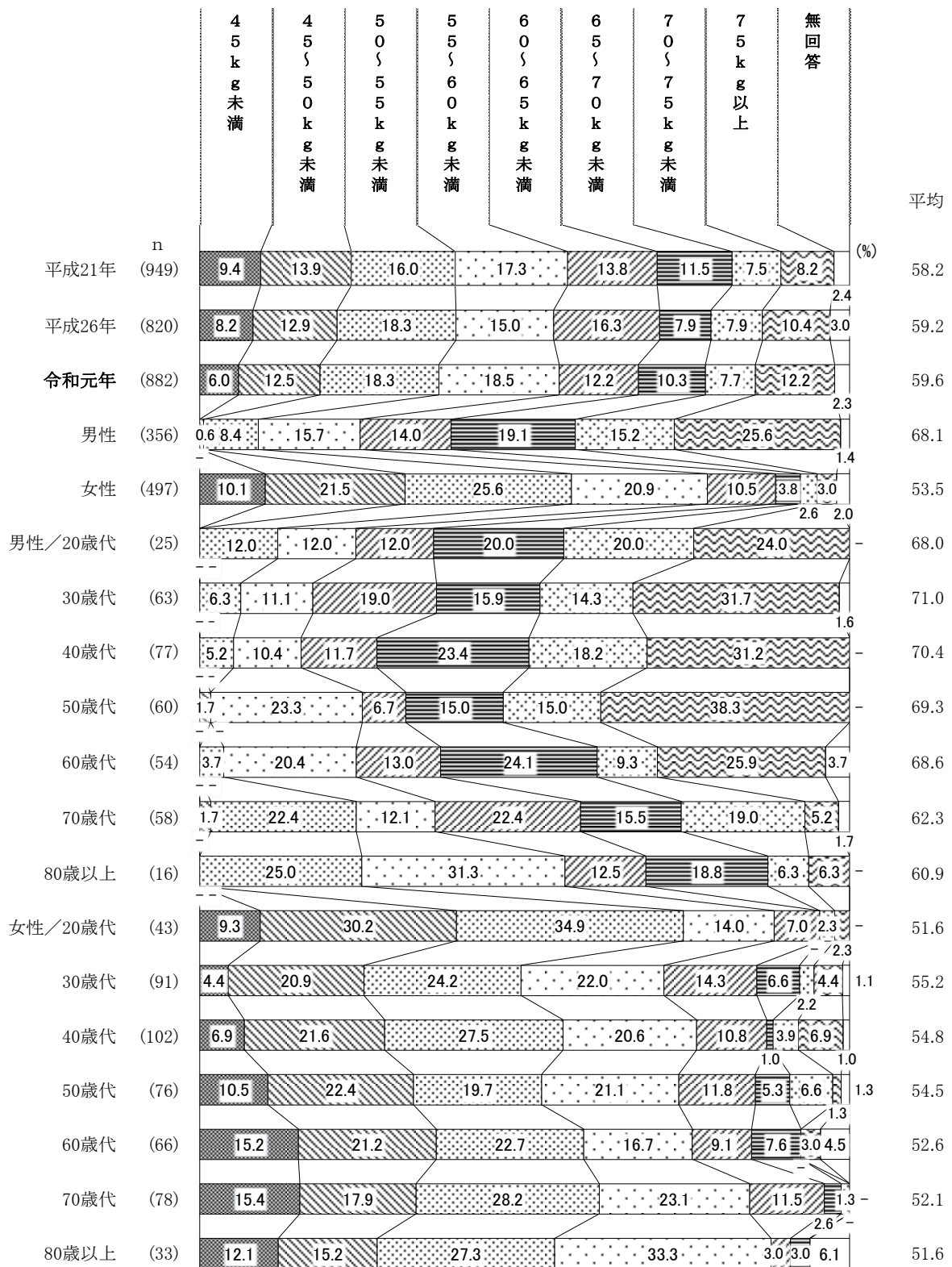
■体重

体重は、平均が59.6kgで、構成比は「50～55kg未満」が18.3%、「55～60kg未満」が18.5%などとなっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、男性の平均は68.1kg、女性の平均は53.5kgである。

性／年代別でみると、男性では30歳代の平均が71.0kg、女性でも30歳代の平均が55.2kgで最も重くなっている。



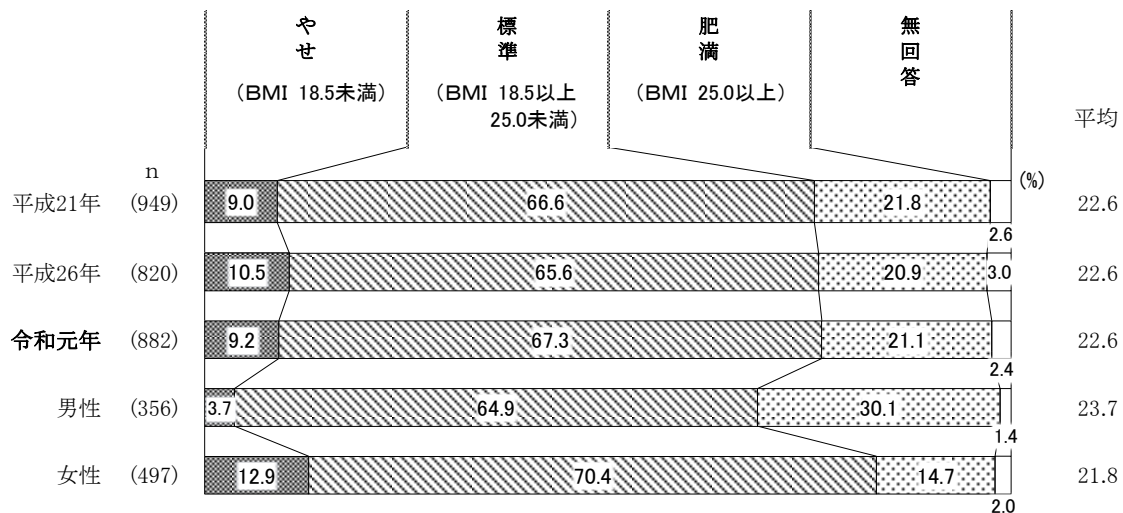
■BMI

身長と体重の結果をもとにBMIを算出した結果、平均は22.6である。構成比は「やせ（BMI 18.5未満）」が9.2%、「標準（BMI 18.5以上～25.0未満）」が67.3%、「肥満（BMI 25.0以上）」が21.1%である。

平成26年との比較では、平均値、構成比ともに特に大きな違いはみられない。

性別でみると、男性の平均は23.7で、女性の平均は21.8である。

構成比については、男女ともに「標準」が高く、特に大きな違いはみられないが、「肥満」は男性の方が女性よりも15.4ポイント高くなっている。逆に、「やせ」は女性が9.2ポイント上回っている。



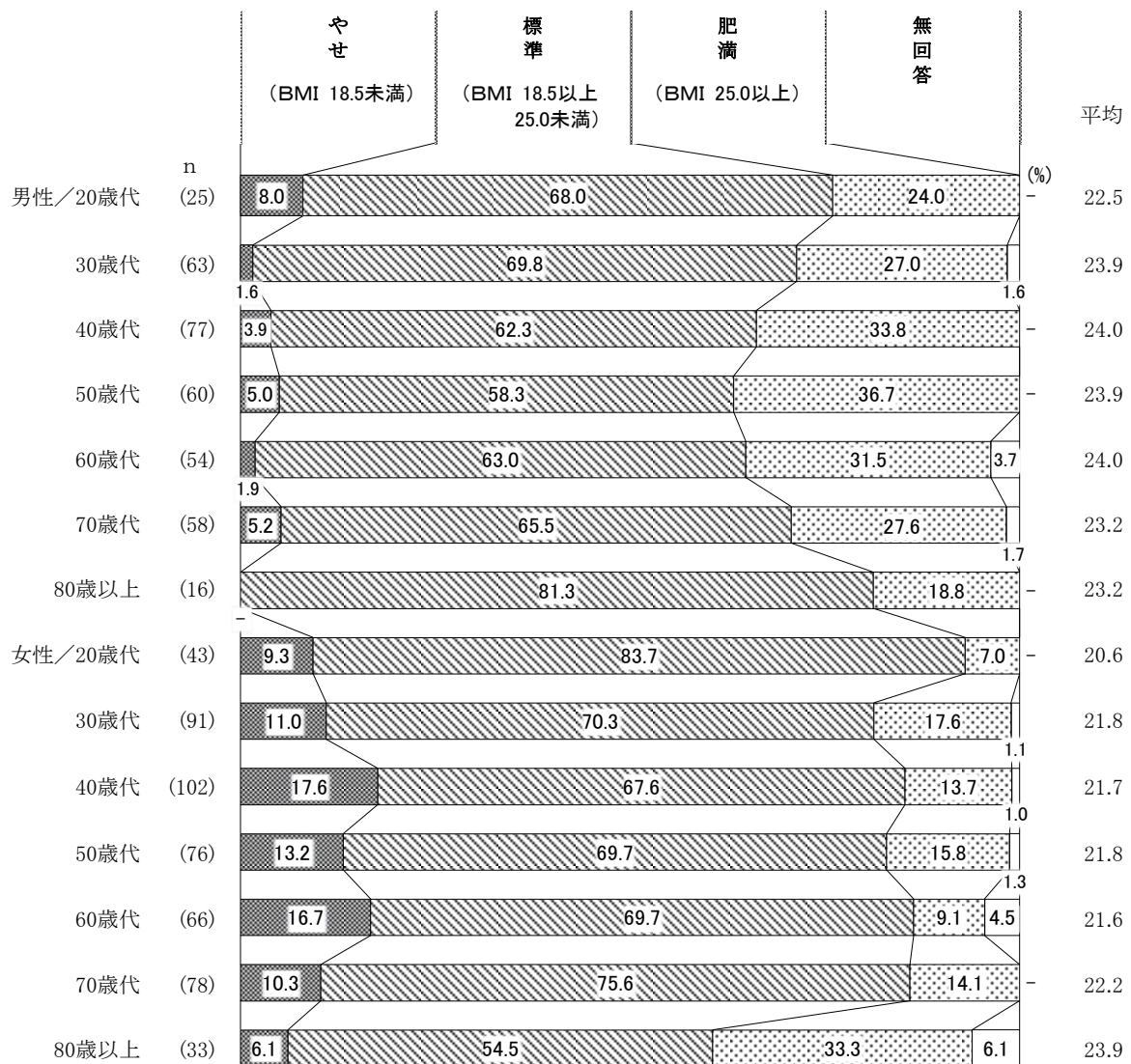
【BMI (Body Mass Index=体格指数) とは…】

体格の判定について広く用いられている指標で、次の式で導くことができ、「22」が標準とされています。

$$\text{BMI} = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$$

また、日本肥満学会ではBMIの判定基準を、18.5未満を「やせ」、18.5以上25.0未満を「普通」、25.0以上について「肥満」と定めています。

性／年代別でみると、「肥満」は男性の50歳代で4割近くと最も高く、男性の40歳代で3割台半ば、女性の80歳以上で3割を超えている。一方、女性では、「やせ」は40歳代と60歳代で2割近くと高くなっている。



(2) 自分の体型への理解

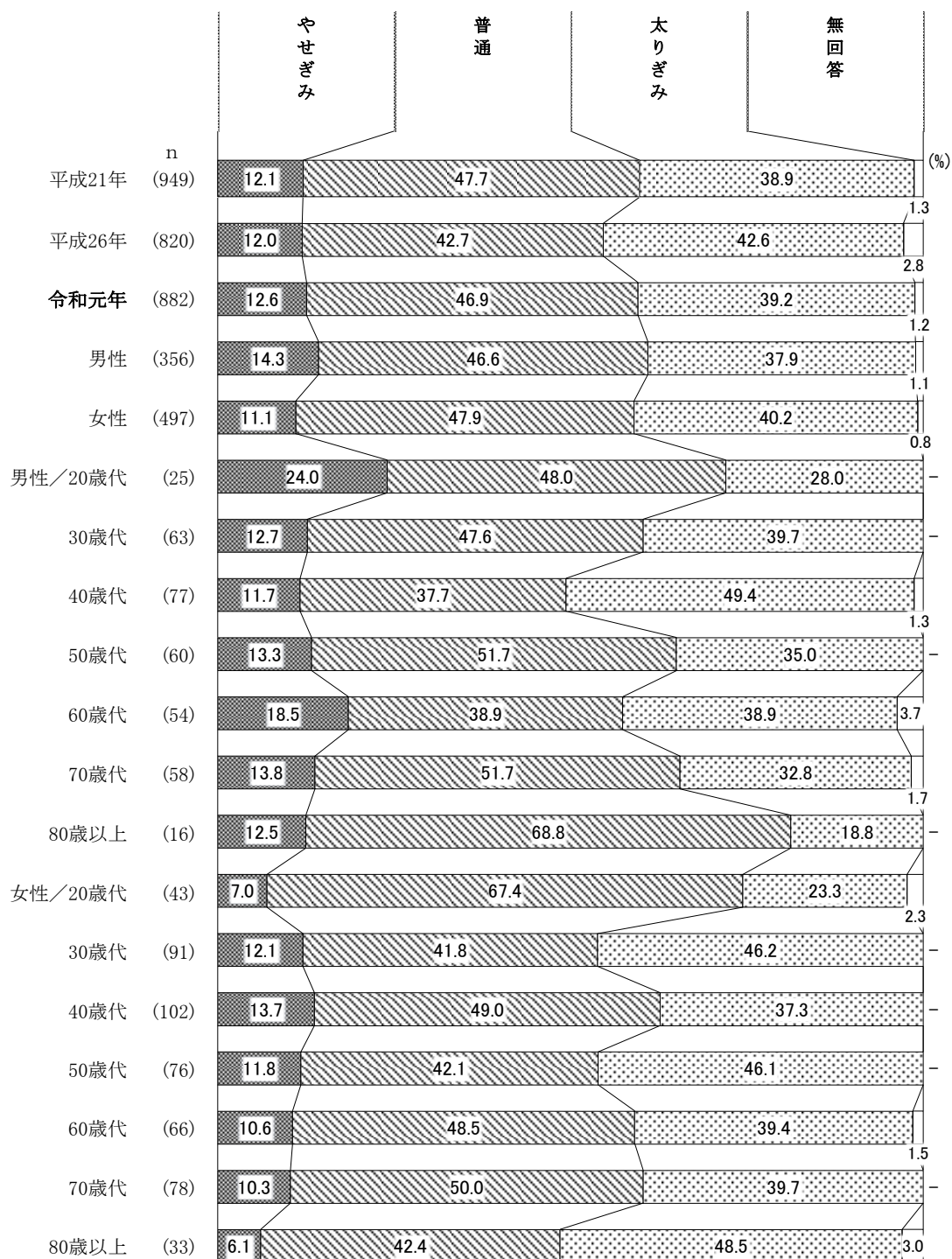
問32 あなたは、自分の体型についてどう思いますか。(〇は1つ)

自分の体型については、「普通」は46.9%、「太りぎみ」は39.2%となっている。

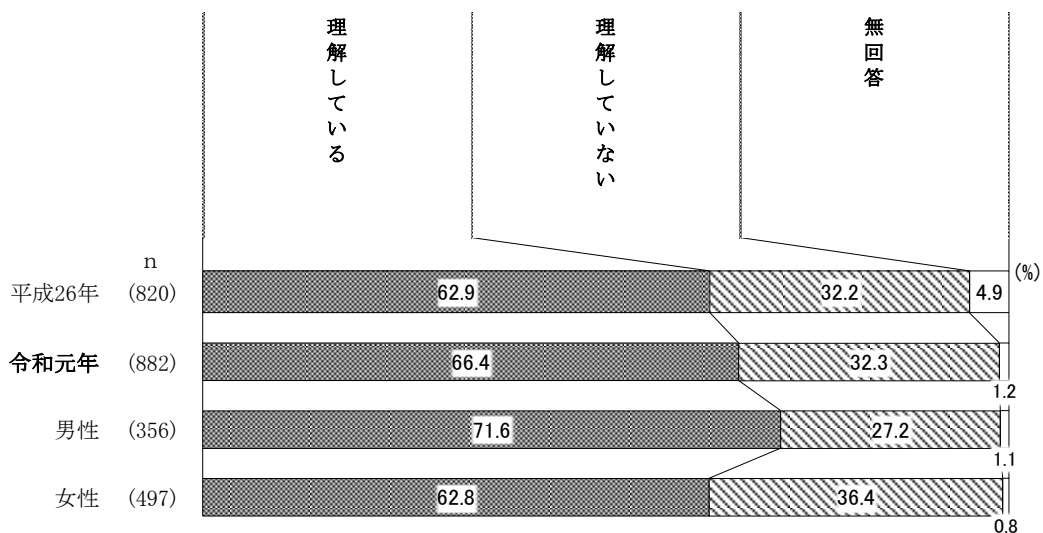
平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

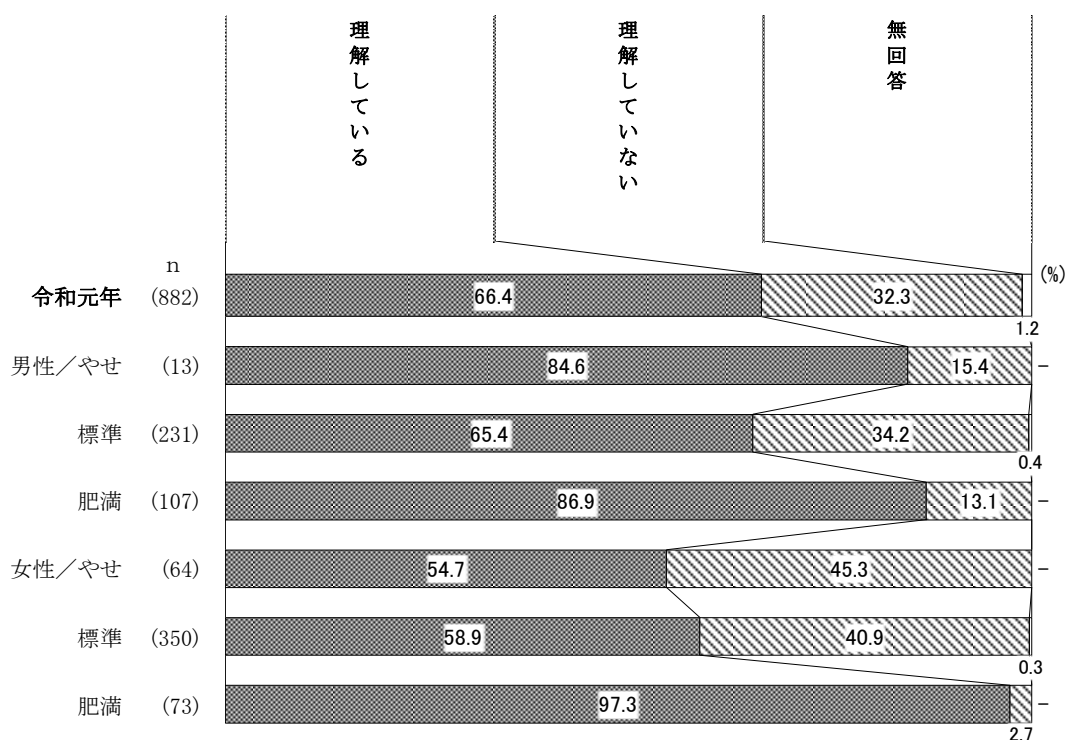
性/年代別でみると、「太りぎみ」は、男性の40歳代、女性の80歳以上で5割近く、「やせぎみ」は男性の20歳代で2割台半ばと高くなっている。



回答者自身の自分の体型への理解と、実際のBMIの一致状況について集約してみた。全体では、「理解している」が66.4%、「理解していない」は32.3%となっている。平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。性別で見ると、「理解している」は男性の方が女性より8.8ポイント高くなっている。



性／BMI別にみると、男性で「理解している」は“標準”が3割を超える。また、女性では「理解していない」は“やせ”“標準”が4割以上と高くなっている。



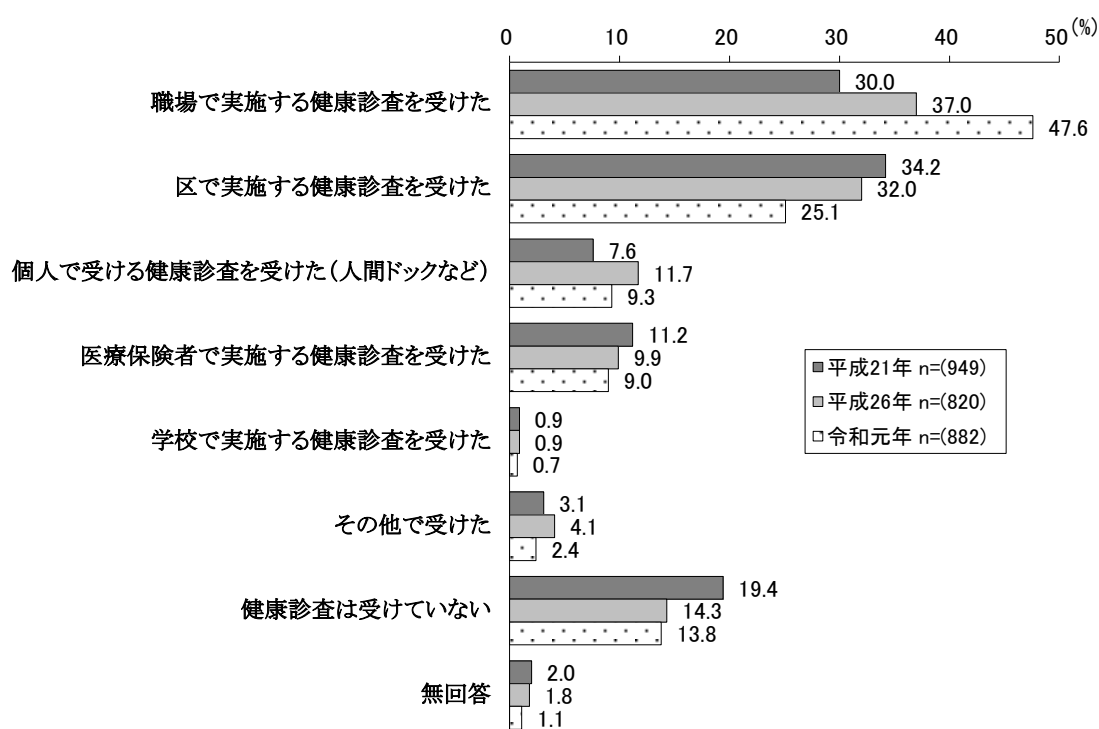
※「問31 BMI」の数値と「問32 自分の体型への理解」の回答が一致しているものを「理解している」、一致していないものを「理解していない」としている。

(3) 健康診査の受診状況

問33 あなたは、この1年間に健康診査（血圧測定・血液検査・尿検査 ※がん検診は除く）を受けましたか。（〇はいくつでも）

健康診査の受診状況は、「職場で実施する健康診査を受けた」が47.6%で最も高く、次いで「区で実施する健康診査を受けた」が25.1%となっている。全体（100.0%）から「健康診査は受けていない」（13.8%）と「無回答」（1.1%）を除いた、何らかの健康診査を受診した人は85.1%となる。

平成26年との比較でみると、「職場で実施する健康診査を受けた」が10.6ポイント高くなり、「区で実施する健康診査を受けた」は6.9ポイント減少した。なお、平成26年で何らかの健康診査を受診した人は83.9%と、令和元年と特に大きな違いはみられない。



性別でみると、「職場で実施する健康診査を受けた」は男性の方が女性よりも12.9ポイント高くなっている。一方、「区で実施する健康診査を受けた」「健康診査は受けていない」は女性がそれぞれ5.2ポイント、5.8ポイント上回っている。

性／年代別でみると、「区で実施する健康診査を受けた」は男女ともに70歳代以上で、「職場で実施する健康診査を受けた」は男女ともに20～50歳代で高くなっている。一方で、「健康診査は受けていない」は、女性の30歳代で2割超えと高くなっている。

単位：％

	n	職場で実施する健康診査を受けた	区で実施する健康診査を受けた	個人で受ける健康診査（個人間ドックなど）を受けた	医療保険者で実施する健康診査を受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答	
令和元年	882	47.6	25.1	9.3	9.0	0.7	2.4	13.8	1.1	
性別										
男性	356	56.2	21.6	9.0	9.3	0.6	2.5	10.1	0.8	
女性	497	43.3	26.8	9.7	8.9	0.8	2.0	15.9	1.0	
性／年代別	男性／20歳代	25	76.0	-	-	8.0	-	16.0	-	
	30歳代	63	79.4	4.8	6.3	3.2	3.2	7.9	-	
	40歳代	77	76.6	9.1	10.4	6.5	1.3	6.5	-	
	50歳代	60	68.3	15.0	16.7	15.0	-	1.7	-	
	60歳代	54	42.6	29.6	7.4	5.6	5.6	13.0	1.9	
	70歳代	58	8.6	53.4	8.6	19.0	5.2	19.0	1.7	
	80歳以上	16	-	68.8	6.3	18.8	-	18.8	6.3	
	女性／20歳代	43	69.8	-	2.3	-	9.3	-	18.6	-
	30歳代	91	60.4	6.6	7.7	5.5	-	3.3	22.0	-
	40歳代	102	53.9	12.7	8.8	8.8	-	2.0	19.6	1.0
	50歳代	76	63.2	18.4	10.5	6.6	-	1.3	11.8	-
	60歳代	66	25.8	30.3	15.2	12.1	-	1.5	16.7	1.5
	70歳代	78	9.0	57.7	11.5	15.4	-	2.6	11.5	2.6
80歳以上	33	-	93.9	6.1	12.1	-	3.0	3.0	-	

職業別でみると、何らかの健康診査を受診した人は「勤め人」（「勤め（全日）」＋「勤め（短時間）」）で多くなっている。

単位：％

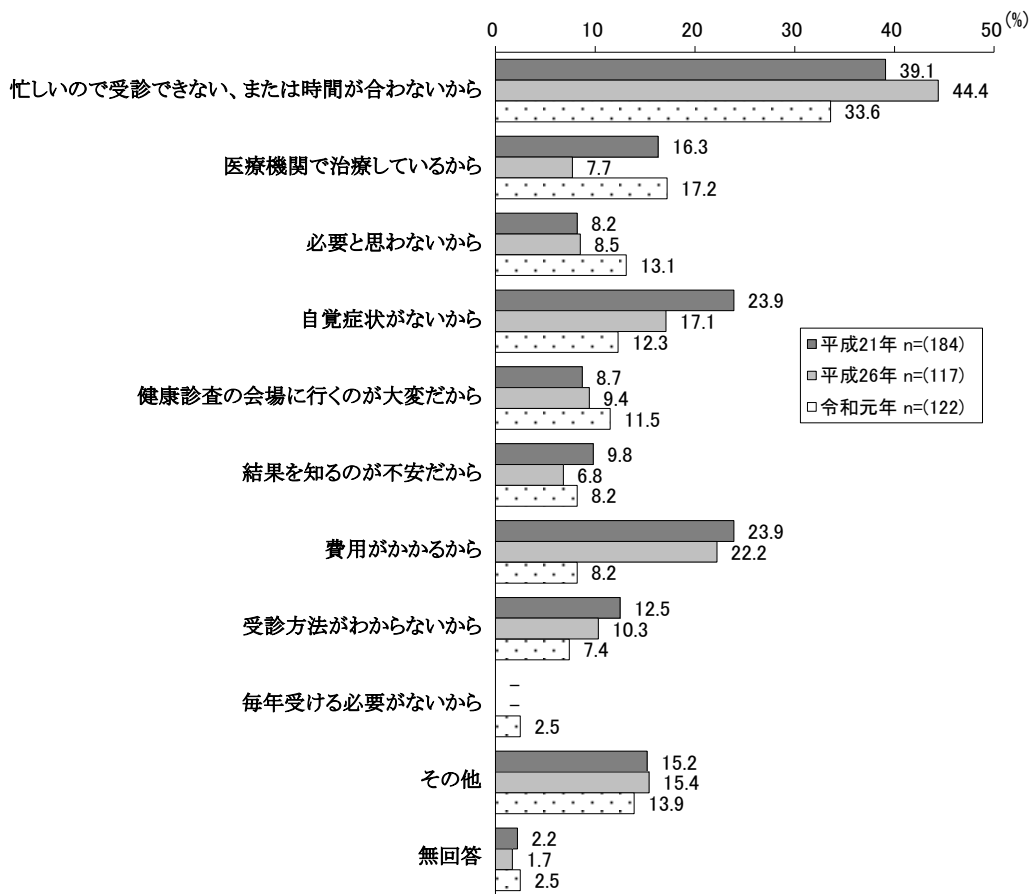
	n	職場で実施する健康診査を受けた	区で実施する健康診査を受けた	個人で受ける健康診査（個人間ドックなど）を受けた	医療保険者で実施する健康診査を受けた	学校で実施する健康診査を受けた	その他で受けた	健康診査は受けていない	無回答
令和元年	882	47.6	25.1	9.3	9.0	0.7	2.4	13.8	1.1
自営業主	68	39.7	23.5	20.6	10.3	-	1.5	17.6	2.9
家族従業（家業手伝い）	14	42.9	7.1	14.3	14.3	-	7.1	28.6	-
勤め（全日）	430	4.0	81.9	8.1	4.7	-	1.2	8.1	-
勤め（短時間）	92	42.4	33.7	13.0	8.7	-	3.3	12.0	1.1
無職の主婦・主夫	106	40.6	6.6	9.4	15.1	-	4.7	26.4	1.9
学生	6	-	-	-	-	100.0	-	-	-
無職	110	59.1	2.7	4.5	15.5	-	4.5	21.8	-

(3-1) 健康診査を受けない理由

付問33-1 健康診査を受けていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

健康診査の受診状況で、「健康診査は受けていない」と回答した方に、その理由をたずねた。その結果、「忙しいので受診できない、または時間が合わないから」が33.6%で最も高く、次いで「医療機関で治療しているから」が17.2%、「必要と思わないから」が13.1%などとなっている。

平成26年との比較でみると、「医療機関で治療しているから」が9.5ポイント増加しており、「忙しいので受診できない、または時間が合わないから」「費用がかかるから」はそれぞれ10.8ポイント、14.0ポイント減少している。



※「毎年受ける必要がないから」は、今回調査で新設。

就労状況別でみると、「忙しいので受診できない、または時間が合わないから」は就労ありの方が就労なしよりも30ポイント以上高くなっている。

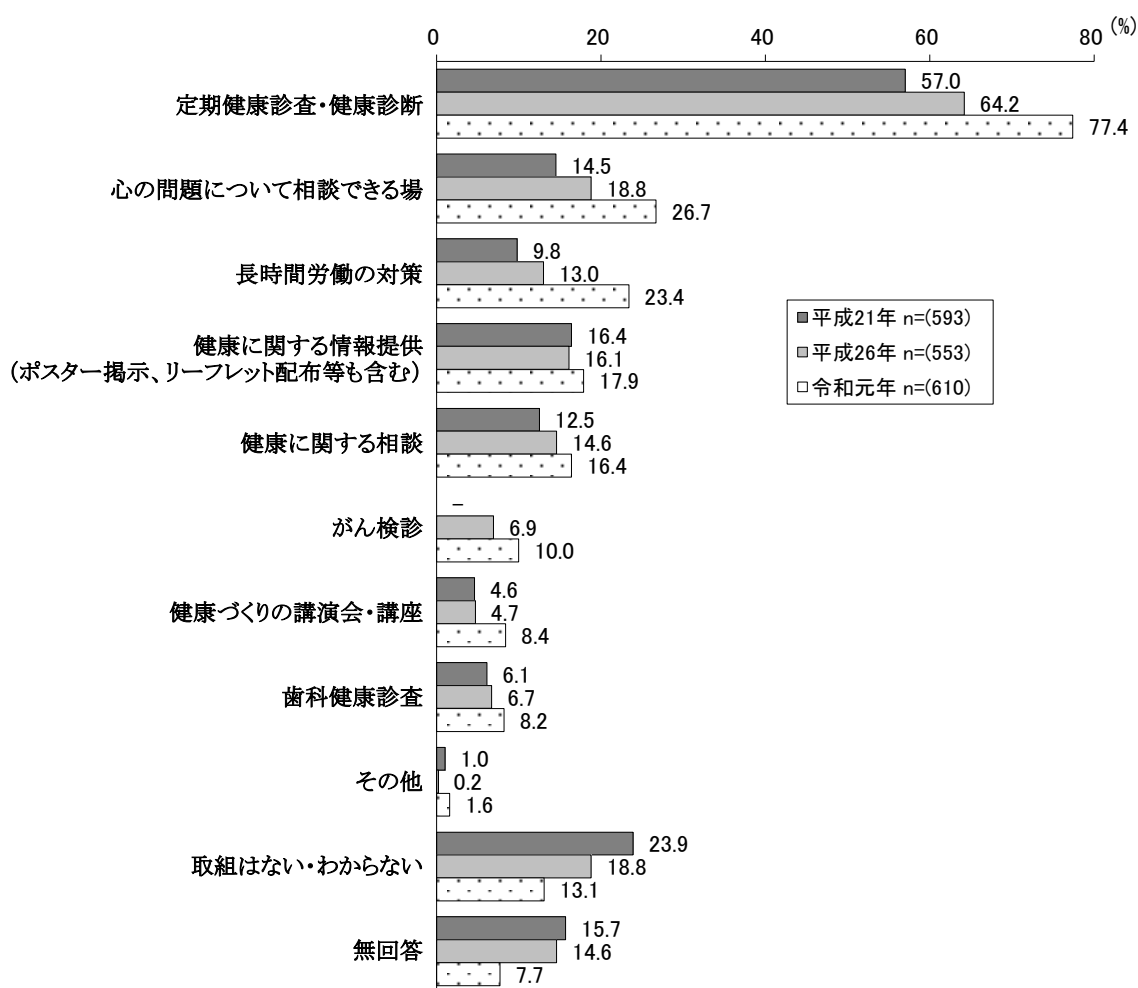
	n	忙しい、または時間が合わないから	医療機関で治療しているから	必要と思わないから	自覚症状がないから	健康診査の会場に行くのが大変だから	結果を知るのが不安だから	費用がかかるから	受診方法がわからないから	毎年受ける必要がないから	その他	無回答
令和元年	122	33.6	17.2	13.1	12.3	11.5	8.2	8.2	7.4	2.5	13.9	2.5
就労あり	62	48.4	16.1	12.9	8.1	6.5	6.5	9.7	8.1	3.2	14.5	-
就労なし	52	13.5	17.3	9.6	11.5	19.2	9.6	5.8	5.8	1.9	15.4	5.8

(4) 職場・学校の実施

問34 あなたの職場・学校では、以下のような取組がありますか。(〇はいくつでも)

仕事をされている方(家事や育児は除く)及び学生に、健康に関する職場や学校での取組をたずねた。その結果、「定期健康診査・健康診断」が77.4%で最も高く、「心の問題について相談できる場」が26.7%、「長時間労働の対策」が23.4%などとなっている。

平成26年との比較で見ると、すべての項目で高くなっており、中でも「定期健康診査・健康診断」が13.2ポイント、「心の問題について相談できる場」が7.9ポイント「長時間労働の対策」が10.4ポイント高くなっている。



※平成21年調査では、「がん検診」の選択肢はなかった。

(5) かかりつけ医の有無

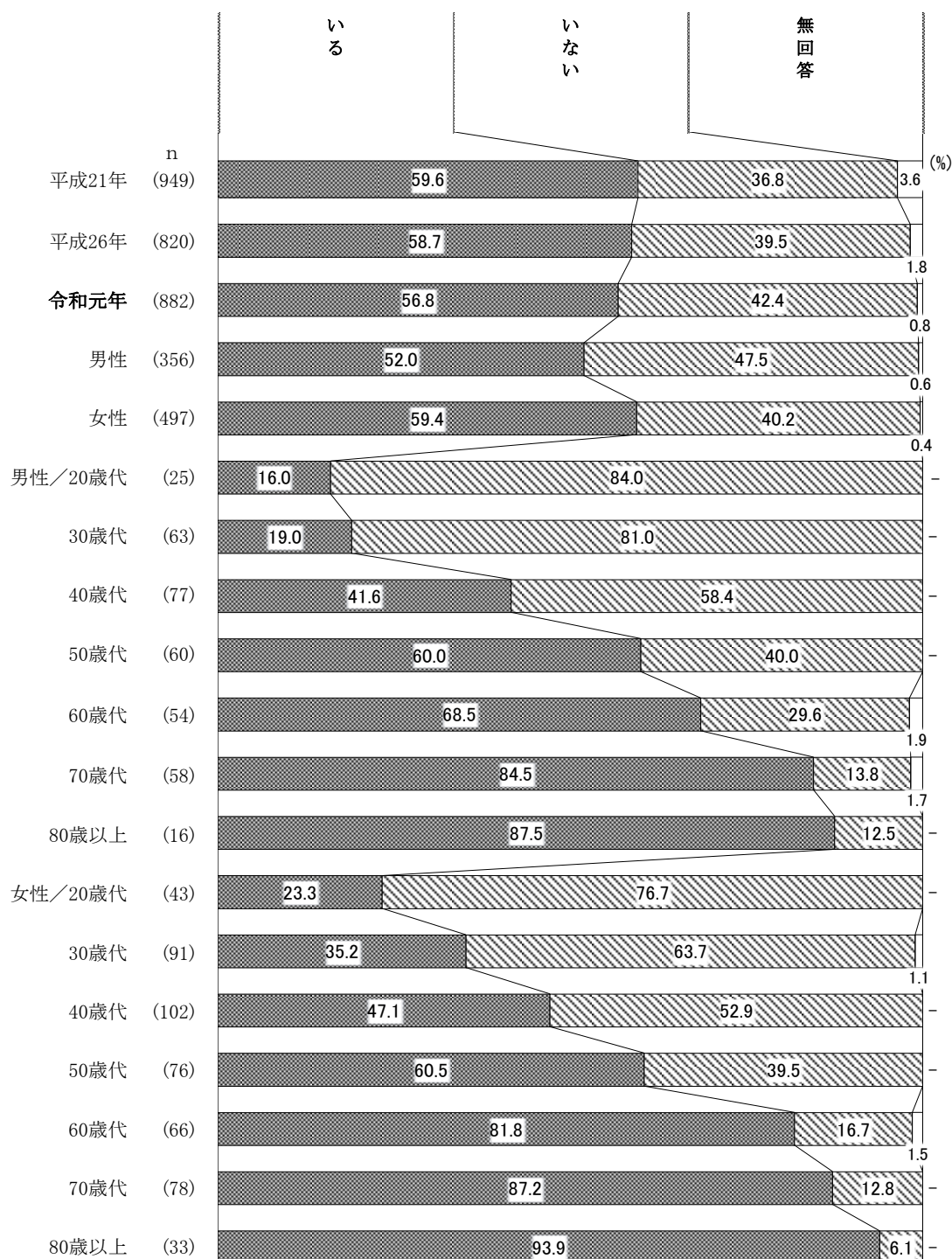
問35 あなたには、かかりつけ医がいますか。(○は1つ)

かかりつけ医が「いる」は56.8%、「いない」は42.4%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別にみると、「いる」は女性の方が男性より7.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「いる」は、男女ともに年代が上がるほど高くなっている。一方、「いない」は、男性の20歳代、30歳代で8割以上と高くなっている。



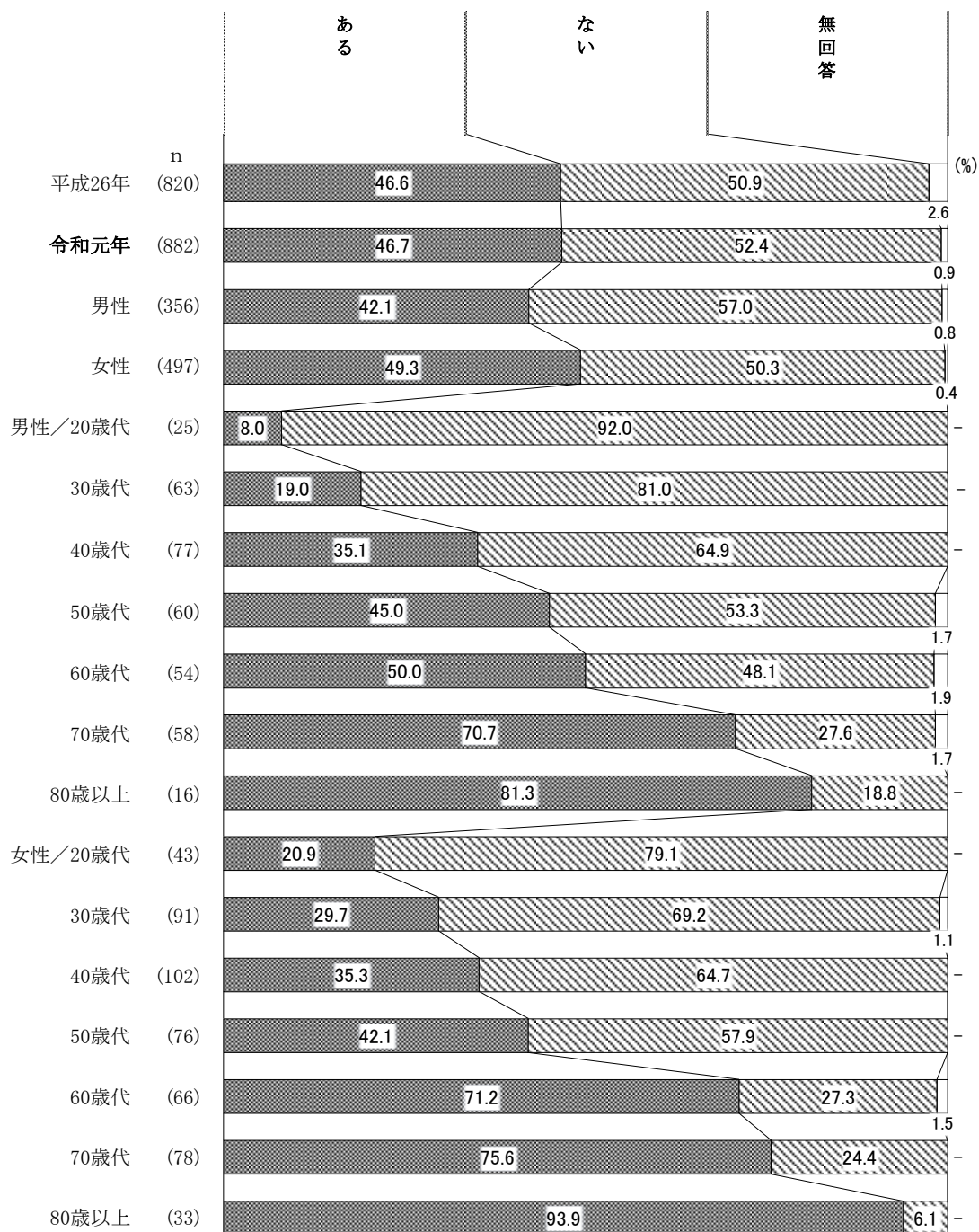
(6) かかりつけ薬局の有無

問36 あなたは、かかりつけ薬局をお持ちですか。(〇は1つ)

かかりつけ薬局が「ある」は46.7%、「ない」は52.4%となっている。

性別では、「ある」は女性の方が男性より7.2ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「ある」は男女ともに年代が上がるほど高くなっている。一方、「ない」は、男性の20歳代で9割超えと高くなっている。



(7) 生活習慣病に関する認識

問37 高血圧や糖尿病について、以下のことを知っていますか。(それぞれ○は1つ)

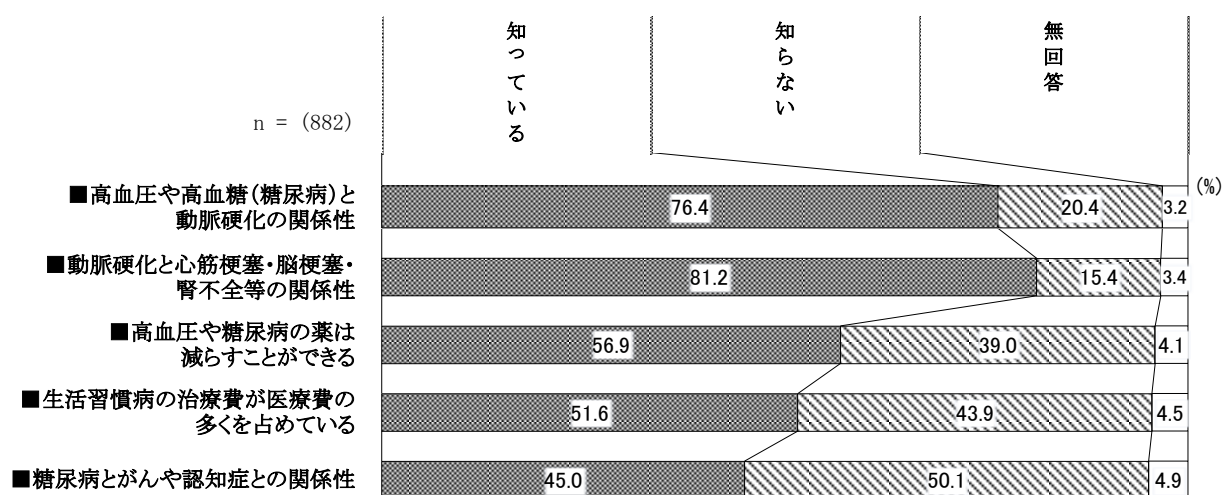
生活習慣病に関する認識をきいたところ、“高血圧や高血糖（糖尿病）と動脈硬化の関係性”について、「知っている」が76.4%、「知らない」は20.4%となっている。

“動脈硬化と心筋梗塞・脳梗塞・腎不全等の関係性”について、「知っている」が81.2%、「知らない」は15.4%となっている。

“高血圧や糖尿病の薬は減らすことができる”について、「知っている」が56.9%、「知らない」は39.0%となっている。

“生活習慣病の治療費が医療費の多くを占めている”について、「知っている」が51.6%、「知らない」は43.9%となっている。

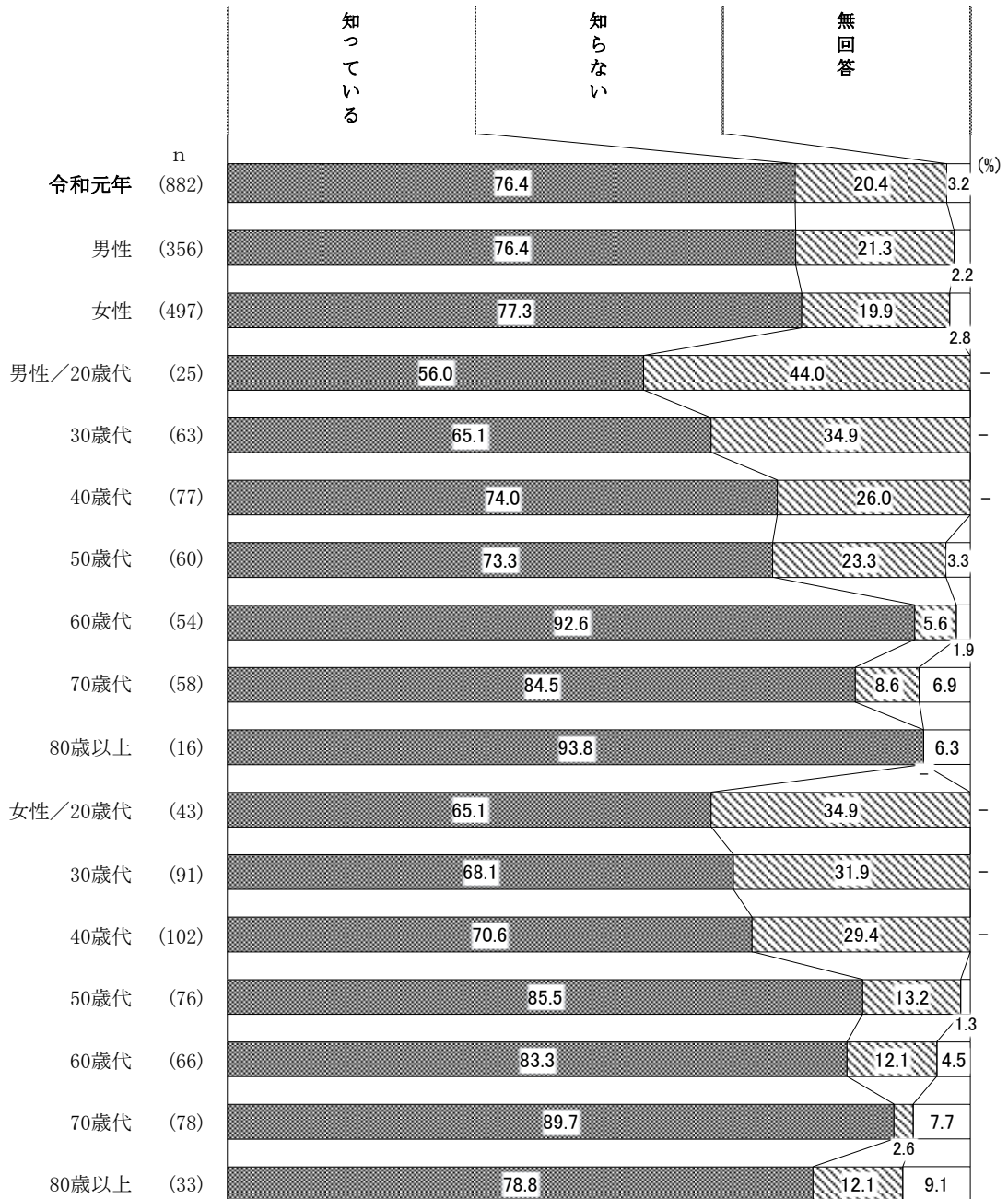
“糖尿病とがんや認知症との関係性”について、「知っている」が45.0%、「知らない」は50.1%と高くなっている。



■高血圧や高血糖（糖尿病）と動脈硬化の関係性

性別では、特に大きな違いはみられない。

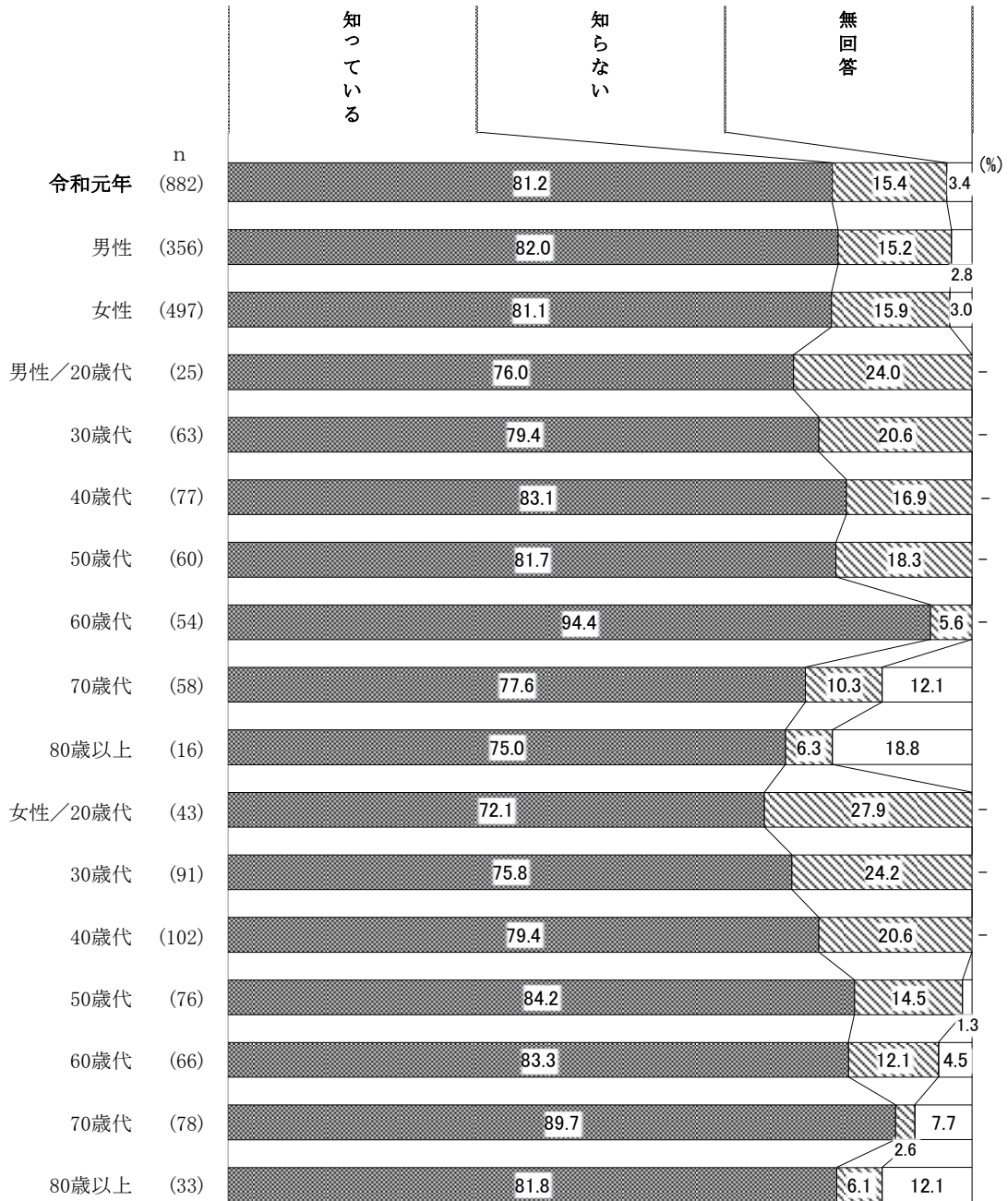
性／年代別でみると、「知っている」は男性の60歳以上と女性の50歳以上で高く、特に男性の60歳代で9割を超える。一方、「知らない」は、男女とも20～30歳代で高く、特に男性の20歳代では4割台半ばと最も高くなっている。



■動脈硬化と心筋梗塞・脳梗塞・腎不全等の関係性

性別では、特に大きな違いはみられない。

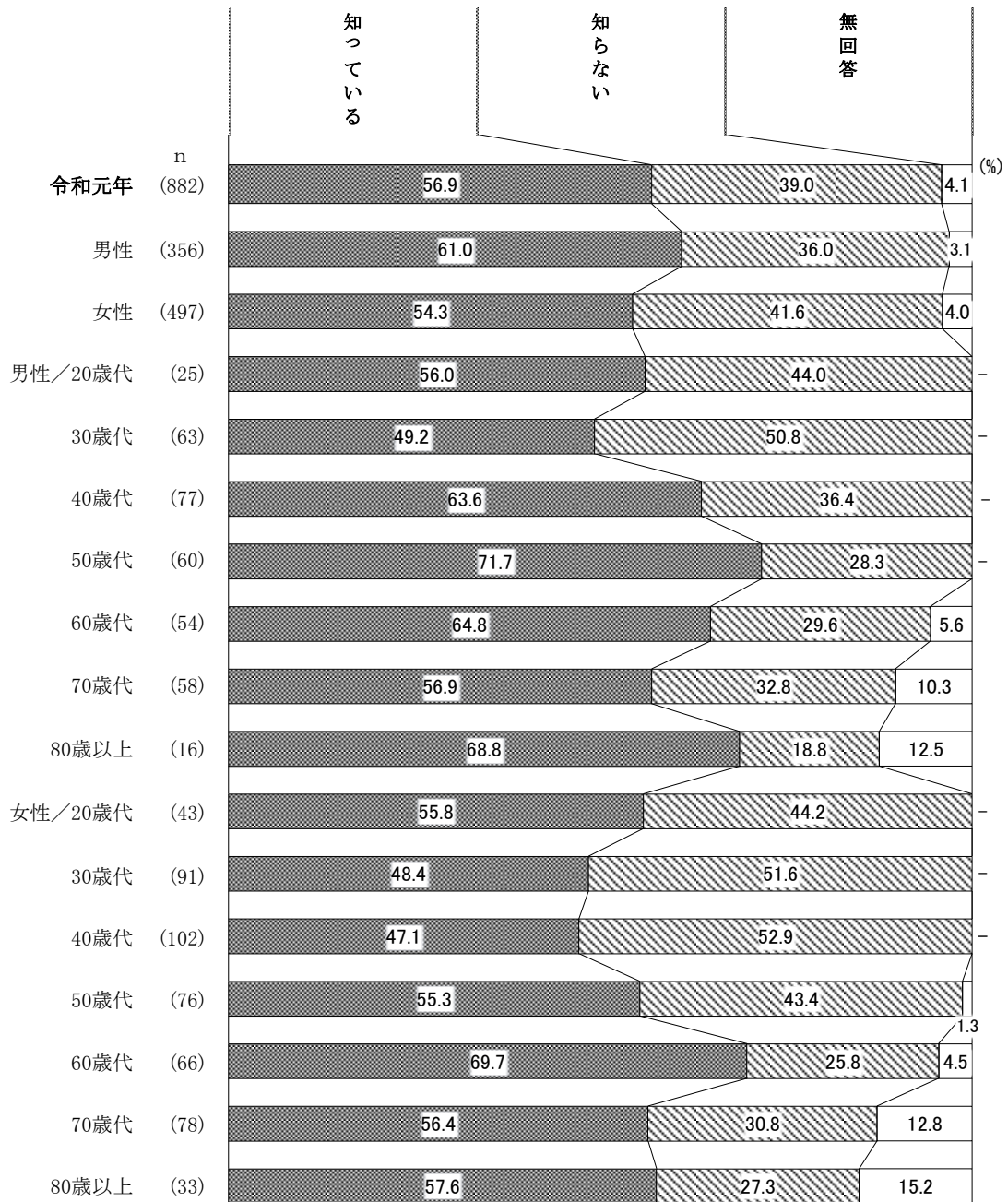
性／年代別でみると、「知っている」は男性の60歳代で9割台半ばと最も高くなっている。一方、「知らない」は、女性の20歳代で3割近くと最も高く、男性の20～30歳代、女性の30歳～40歳代でも2割台となっている。



■高血圧や糖尿病の薬は減らすことができる

性別で見ると、「知っている」は男性の方が女性より6.7ポイント高くなっている。

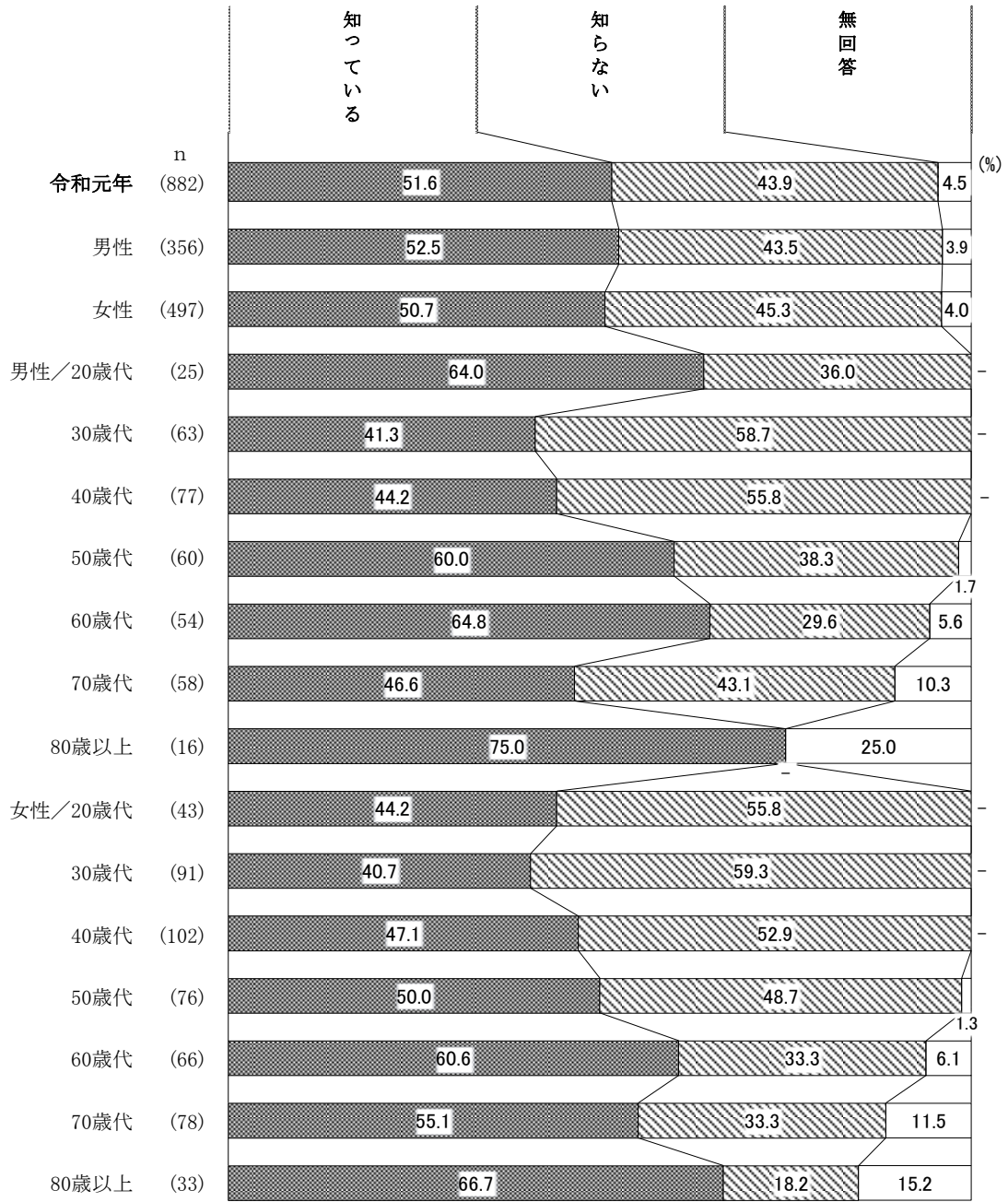
性／年代別で見ると、「知っている」は男性の50歳代と女性の60歳代で約7割から7割超えと高くなっている。一方、「知らない」は、男性の30歳代と女性の30～40歳代で5割を超える。



■生活習慣病の治療費が医療費の多くを占めている

性別では、特に大きな違いはみられない。

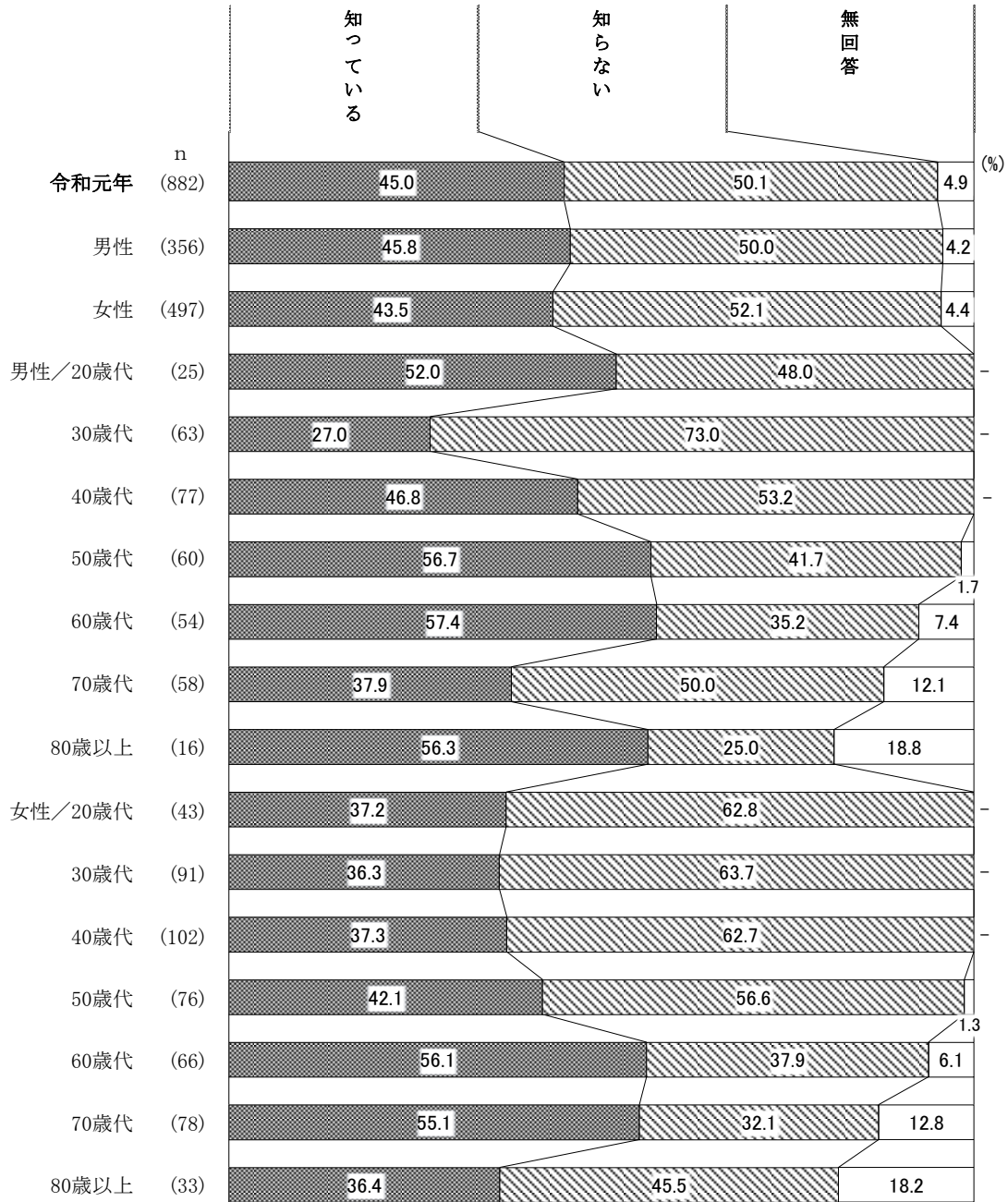
性／年代別でみると、「知らない」は、男性の30～40歳代、女性の20～40歳代で5割以上と高くなっている。



■糖尿病とがんや認知症との関係性

性別では、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、「知らない」は、男性の30歳代で7割超えと最も高く、女性の20～40歳代で6割以上となっている。



8 歯の健康について

(1) 口中の健康状態の満足度

問38 あなたは、自分の歯や歯肉（歯ぐき）などの口の健康状態に満足していますか。

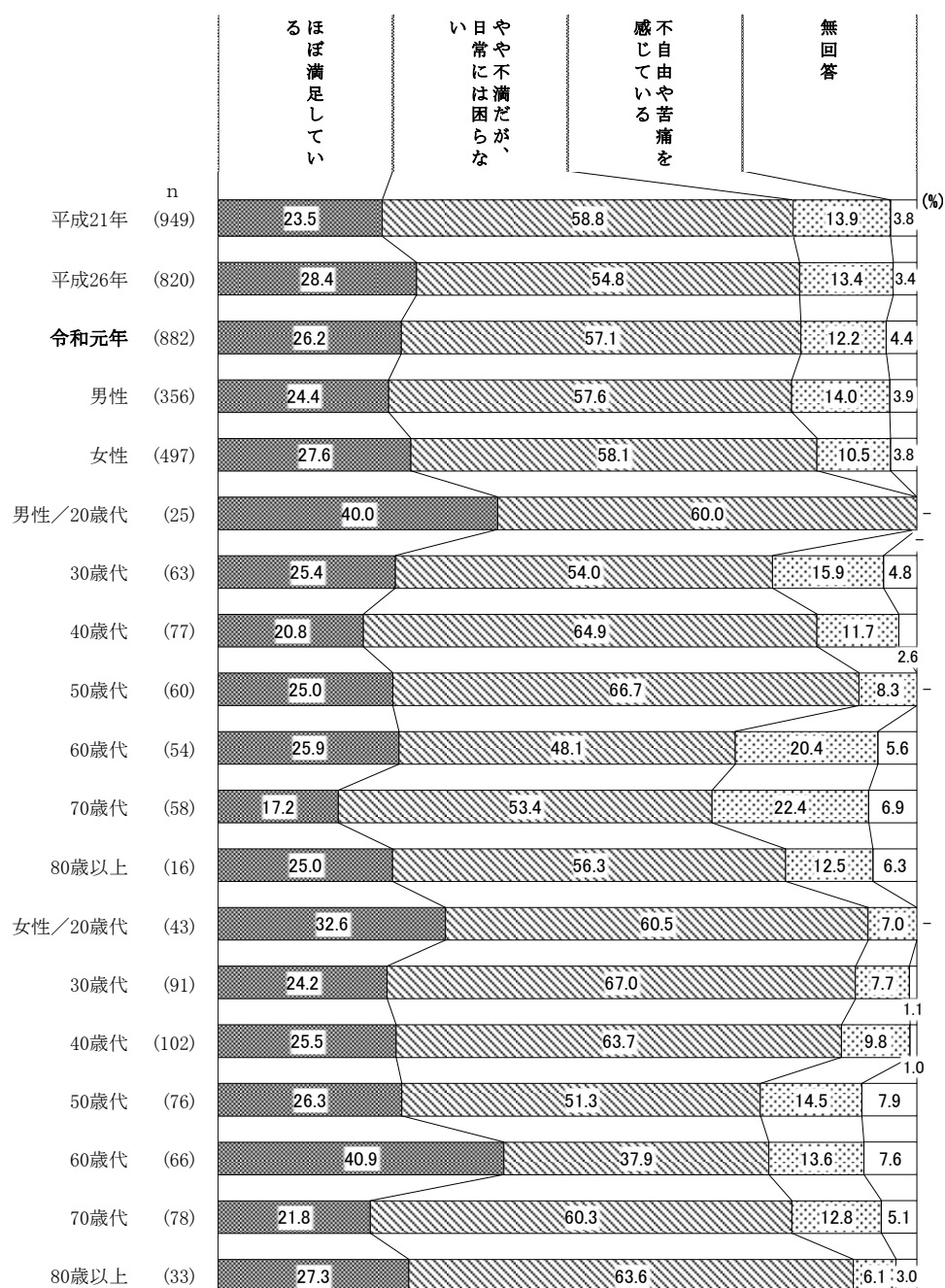
(○は1つ)

歯や歯肉（歯ぐき）などの健康への満足度について、「やや不満だが、日常には困らない」が57.1%で最も高く、「ほぼ満足している」が26.2%となっている。一方、「不自由や苦痛を感じている」は12.2%みられる。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、「ほぼ満足している」は、男性の20歳代と女性の60歳代で4割以上と高くなっている。



(2) 歯の本数

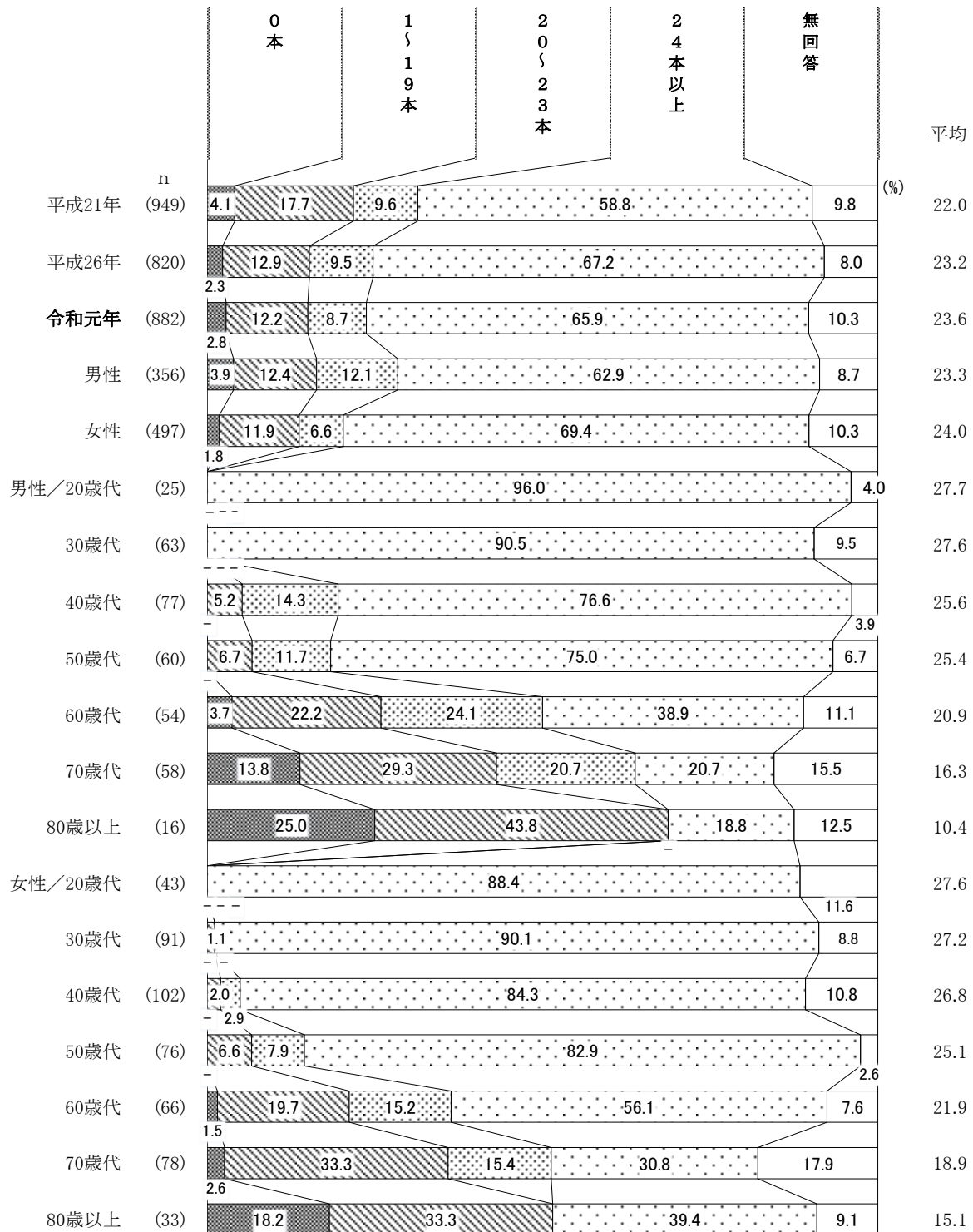
問39 あなたの歯は現在何本ありますか。(親知らずは含みません)

歯の平均本数は23.9本で、構成比をみると、「24本以上」が65.9%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「24本以上」は女性の方が男性より6.5ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「24本以上」は男女とも20～30歳代で9割以上である一方、女性の70歳以上は3割台、男性70歳代では2割台と低くなっている。



(3) 糖尿病・喫煙による歯周病リスクの認知度

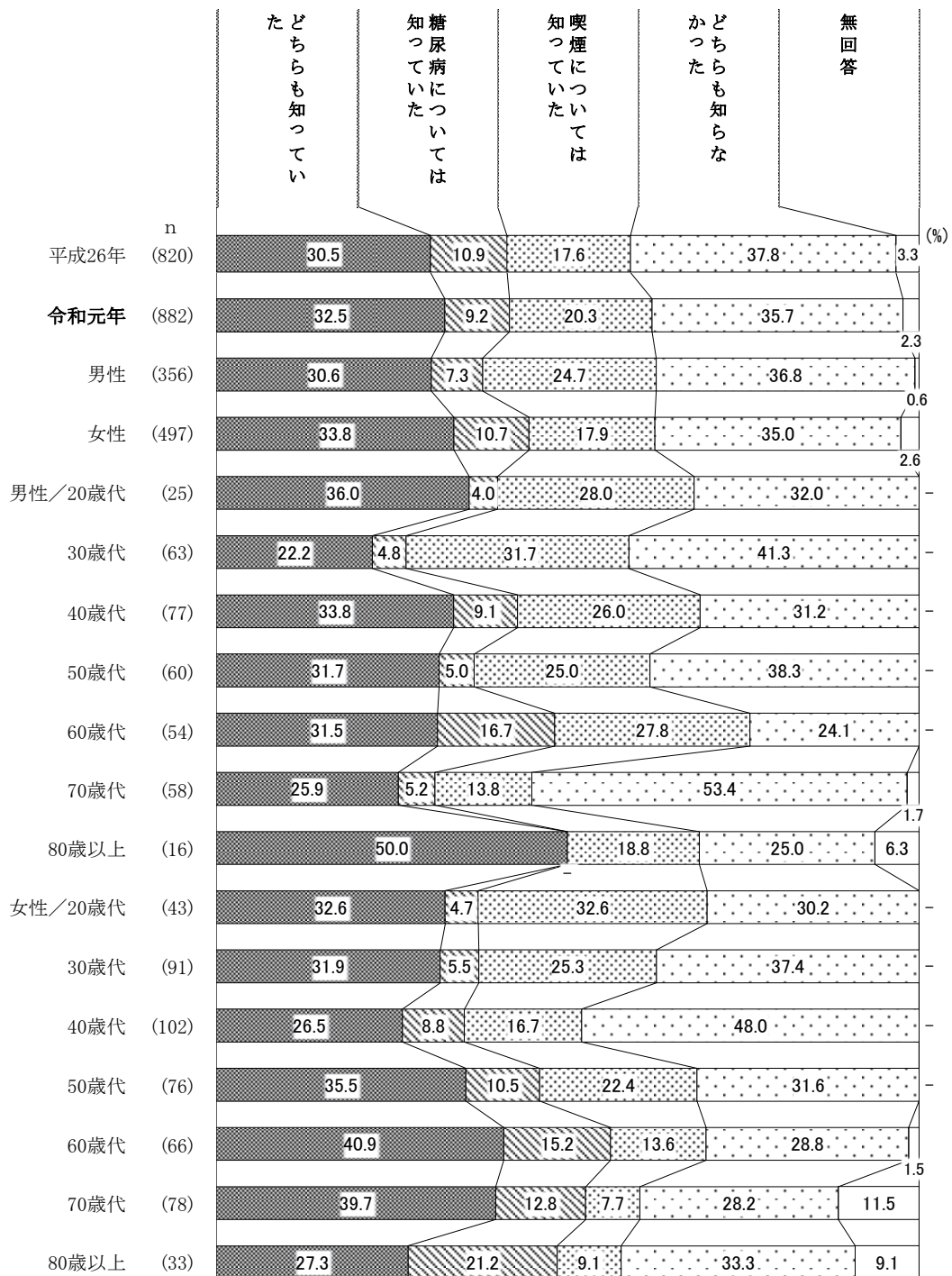
問40 あなたは、糖尿病・喫煙が歯周病（歯槽のうろう）のリスクであることを知っていましたか。（〇は1つ）

糖尿病・喫煙が歯周病のリスクであることについて、「どちらも知らなかった」が35.7%で最も高く、次いで「どちらも知っていた」が32.5%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「喫煙については知っていた」は男性の方が女性より6.8ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「どちらも知っていた」は、女性の60～70歳代で約4割から4割超えと高くなっている。一方、「どちらも知らなかった」は男性の70歳代が5割台半ばで高くなっている。



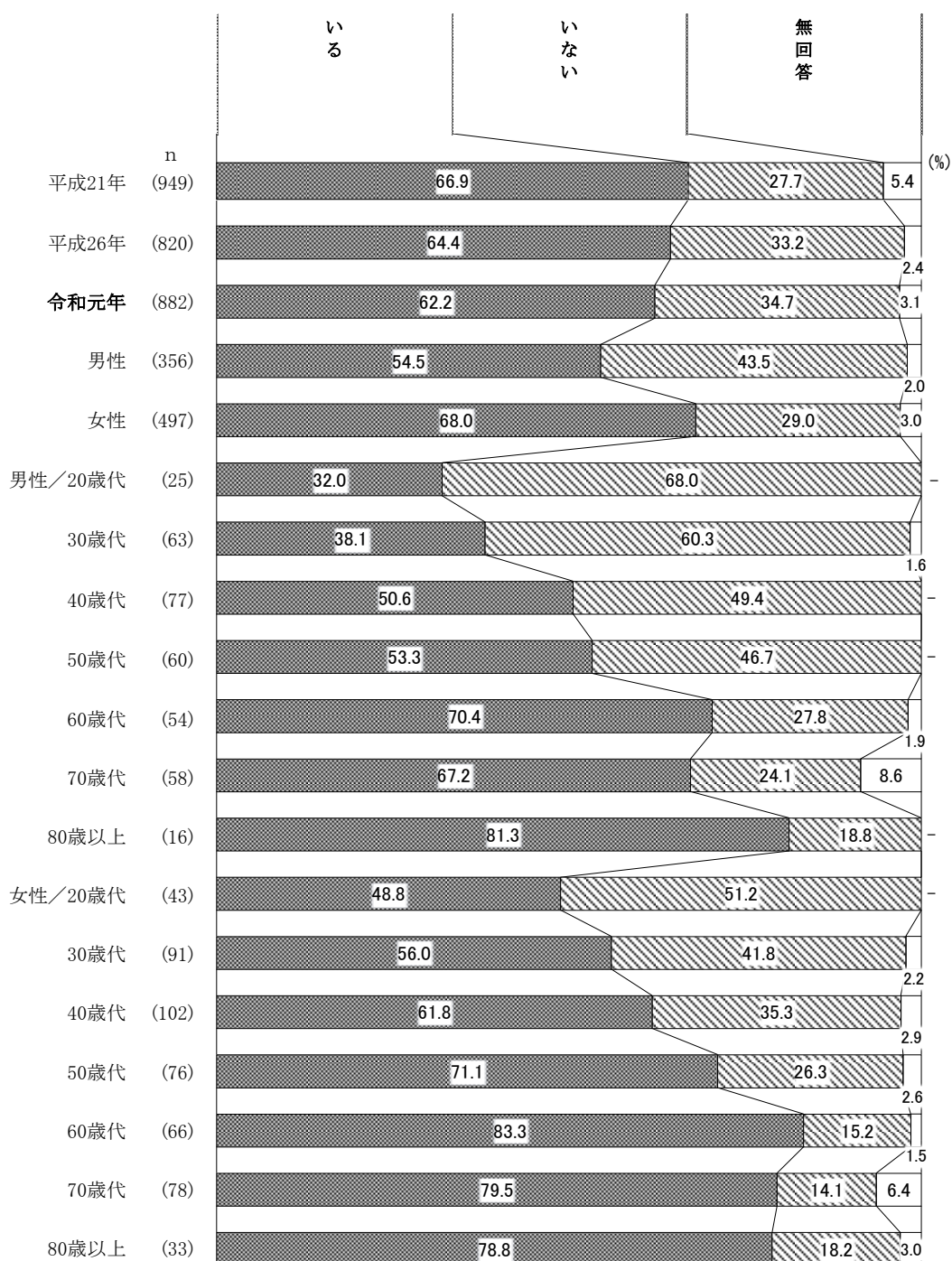
(4) かかりつけ歯科医の有無

問41 あなたには、かかりつけ歯科医がいますか。(〇は1つ)

かかりつけ歯科医の有無について、「いる」は62.2%、「いない」は34.7%となっている。
平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「いる」は女性の方が男性より13.5ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「いる」は女性の60歳代以上で8割近くから8割を超えて高くなっている。



(4-1) 治療以外の診査・処置の受診状況

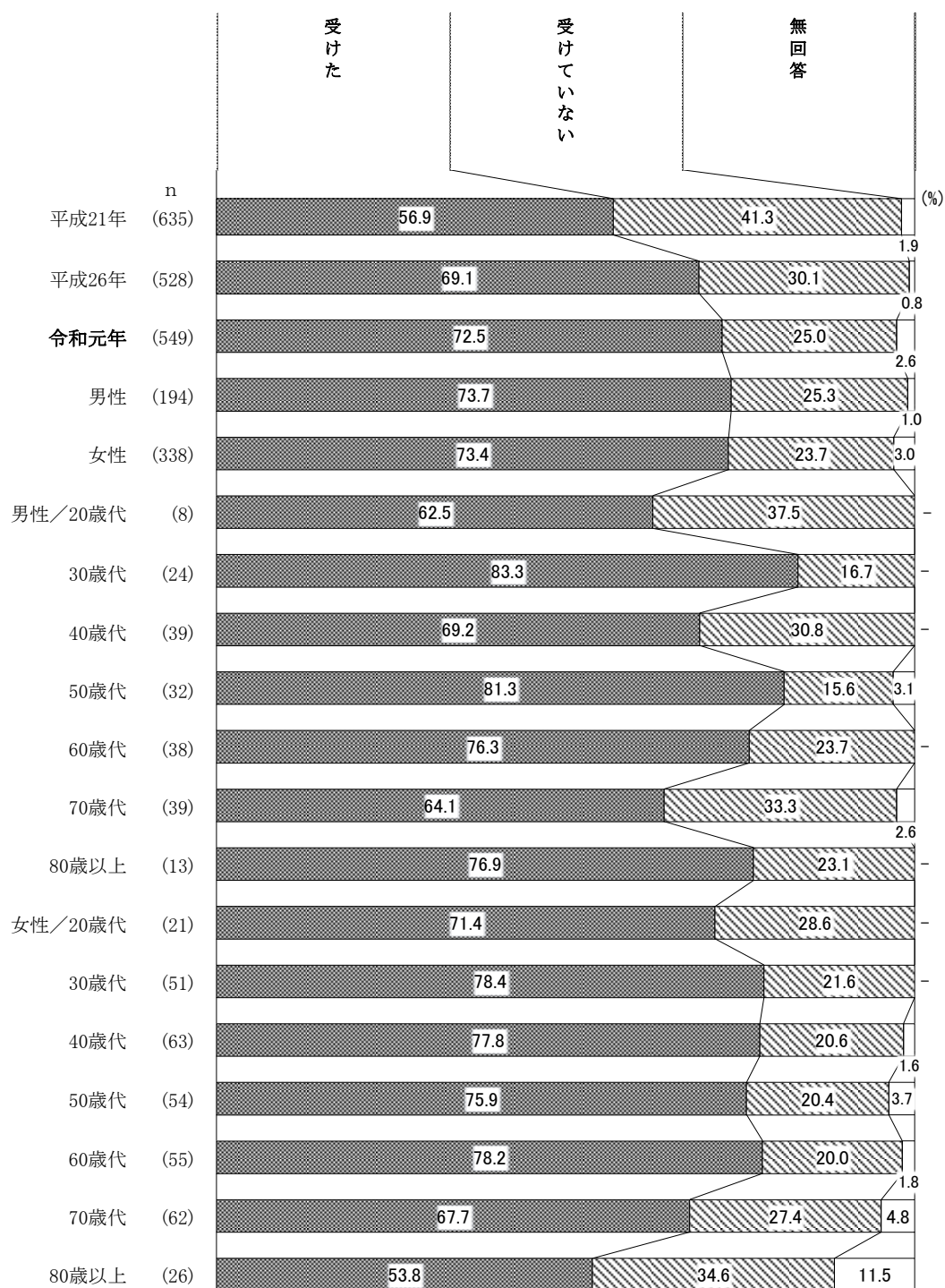
付問41-1 この1年間にむし歯や歯周病の治療のほかに、歯科健康診査、歯みがき指導、フッ素塗布、歯石除去などの診査・処置を受けましたか。(〇は1つ)

かかりつけ歯科医が「いる」と回答した方に、この1年間に歯科健康診査、歯みがき指導、フッ素塗布、歯石除去などの診査・処置を受けたかたずねた。その結果、「受けた」は72.5%、「受けていない」は25.0%となっている。

平成26年との比較で見ると、「受けていない」は5.1ポイント減少している。

性別では、特に大きな違いはみられない。

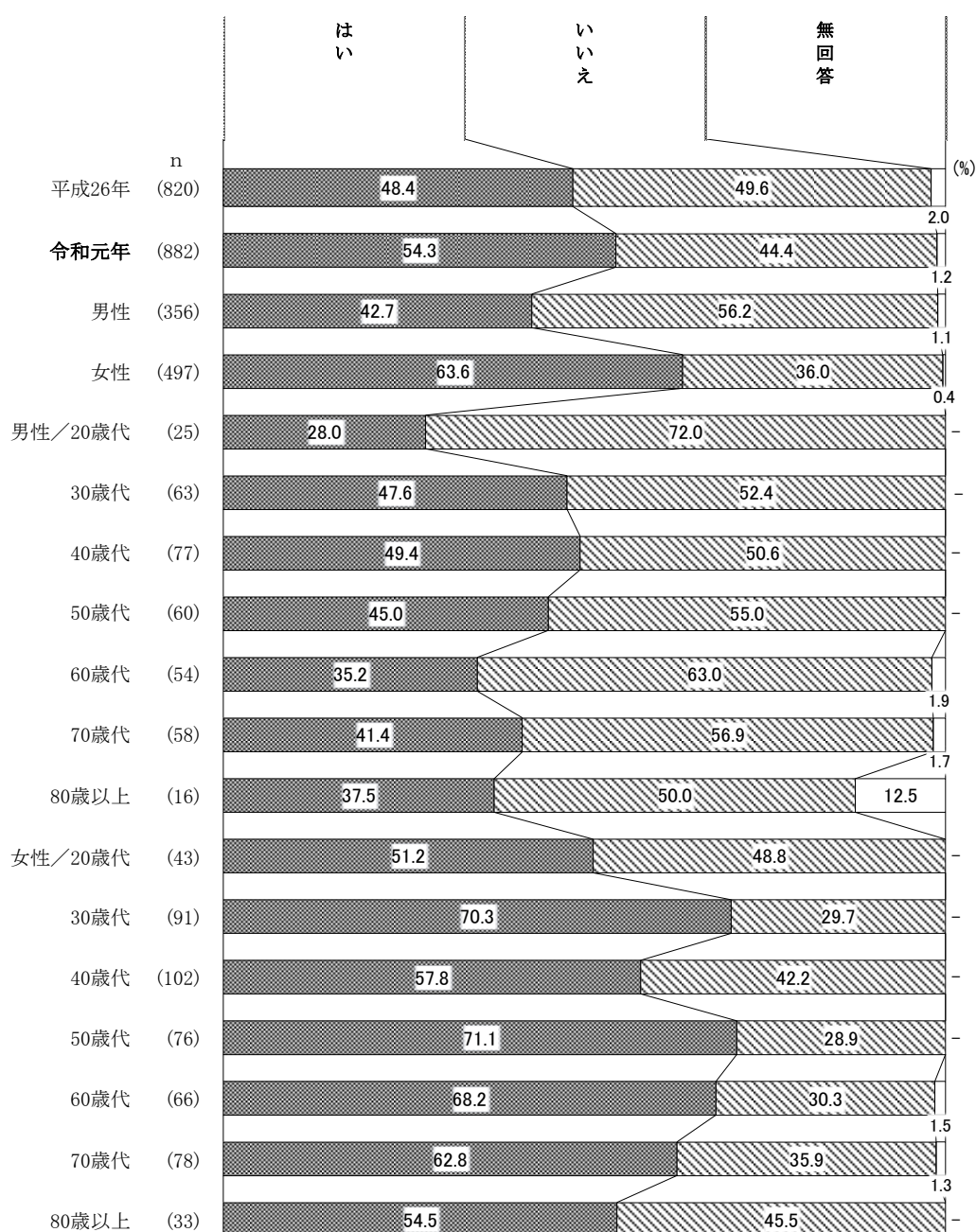
性/年代別で見ると、「受けた」は、男性の50歳代で8割超えと高くなっている。



(5)「8020運動」の認知

問42 「8020運動」についておたずねします。
あなたは、「8020運動」を知っていましたか。(〇は1つ)

「8020運動」の認知について、「はい」は54.3%、「いいえ」が44.4%となっている。
平成26年との比較でみると、「はい」は5.9ポイント増加した。
性別でみると、「はい」は女性の方が男性より20.9ポイント高くなっている。
性／年代別でみると、「はい」は女性の30歳代と50歳代で7割以上と高く、一方、「いいえ」は
男性の20歳代で7割超えと高くなっている。



【8020運動とは…】

80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動で、生涯にわたり自分の歯で物を噛むことを意味します。

9 感染症予防について

(1) 感染症予防のための帰宅時や食事前の手洗いの状況

問43 あなたは、感染症予防のために、帰宅時や食前にいつも手洗いをしますか。

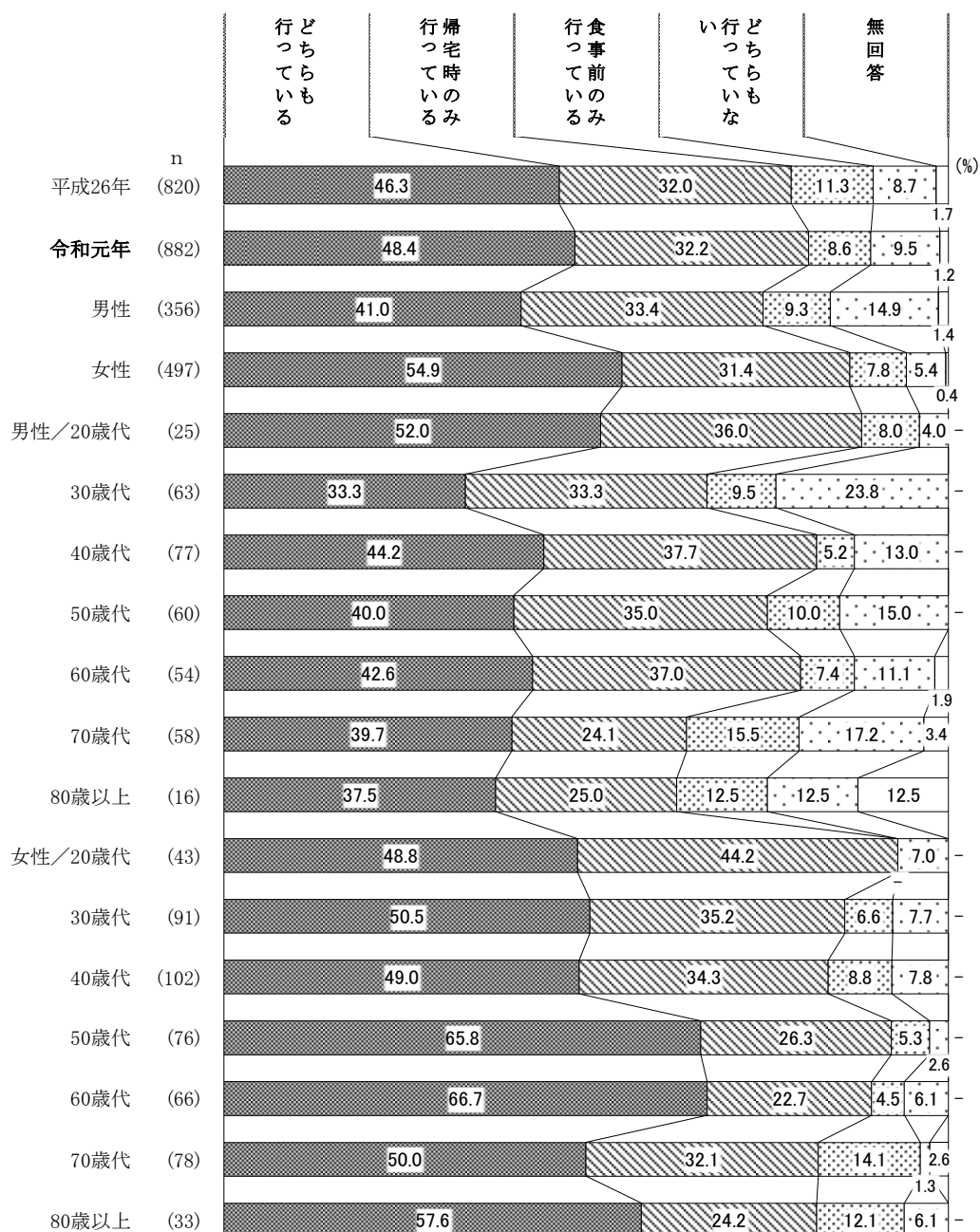
(○は1つ)

感染症予防のための帰宅時や食事前の手洗いの状況について、「どちらも行っている」が48.4%で最も高く、「帰宅時のみ行っている」が32.2%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「どちらも行っている」は女性の方が男性より13.9ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「どちらも行っている」は、女性の50～60歳代で6割以上と高くなっている。一方、「どちらも行っていない」は男性の30歳代で2割台半ばと高くなっている。



(2) 感染症予防のための咳エチケットの心がけ

問44 あなたは、感染症予防のために、咳エチケットをいつも心がけていますか。

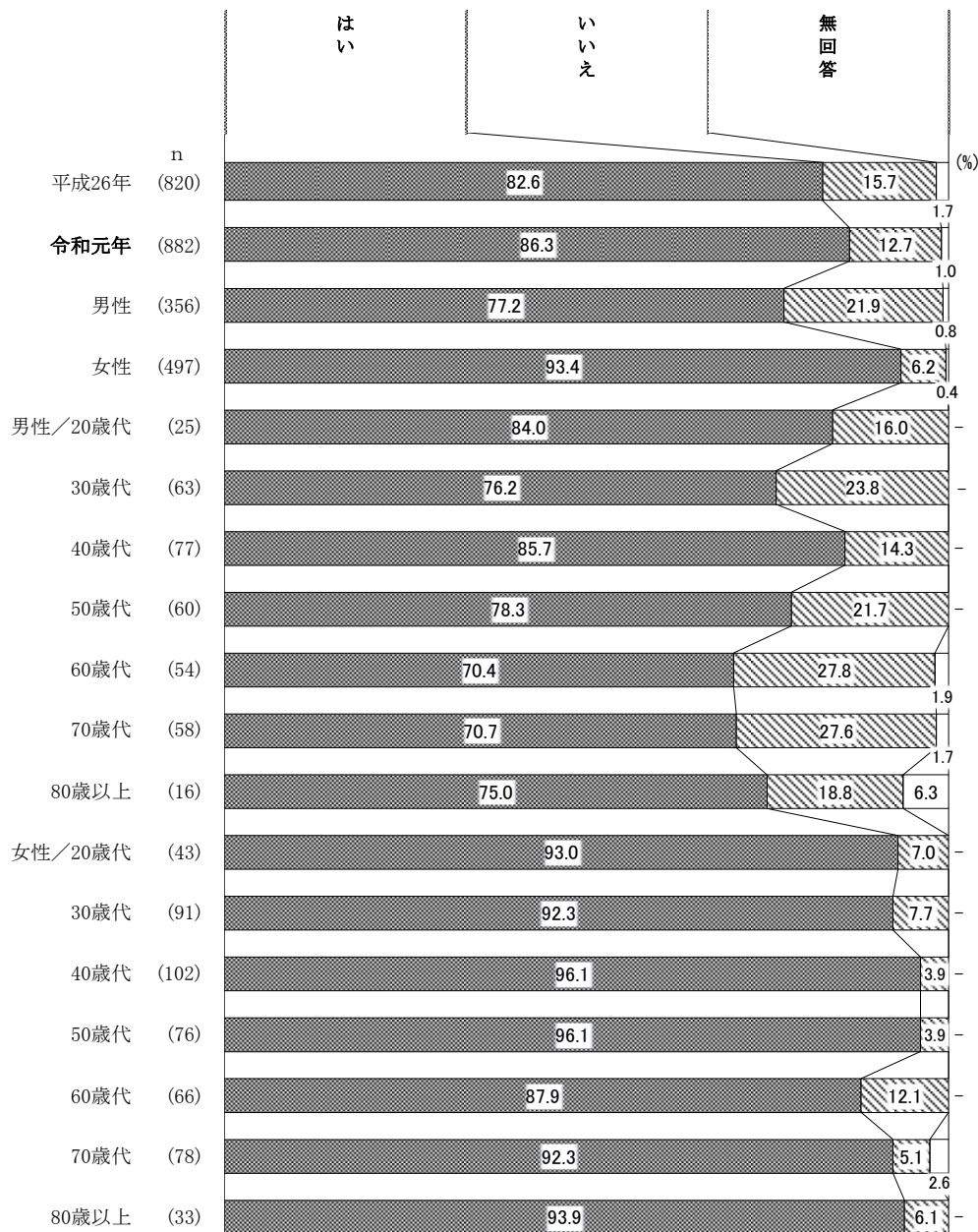
(○は1つ)

感染症予防のための咳エチケットの心がけについて、「はい」が86.3%と高く、「いいえ」が12.7%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると「はい」は女性の方が男性より16.2ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「はい」は女性のほとんどの年代で9割以上と高くなっている。一方、「いいえ」は男性の30歳代と50～70歳代で2割台と高くなっている。



【咳エチケットとは…】

病気の有無に関わらず、普段からせき・くしゃみが直接人にかからないようにすることです。(せき・くしゃみをするときは、ティッシュなどで口と鼻をおおったり、せき・くしゃみが続くときはマスクをしたりするなどです。)

10 地域活動について

(1) 近所付き合いの程度

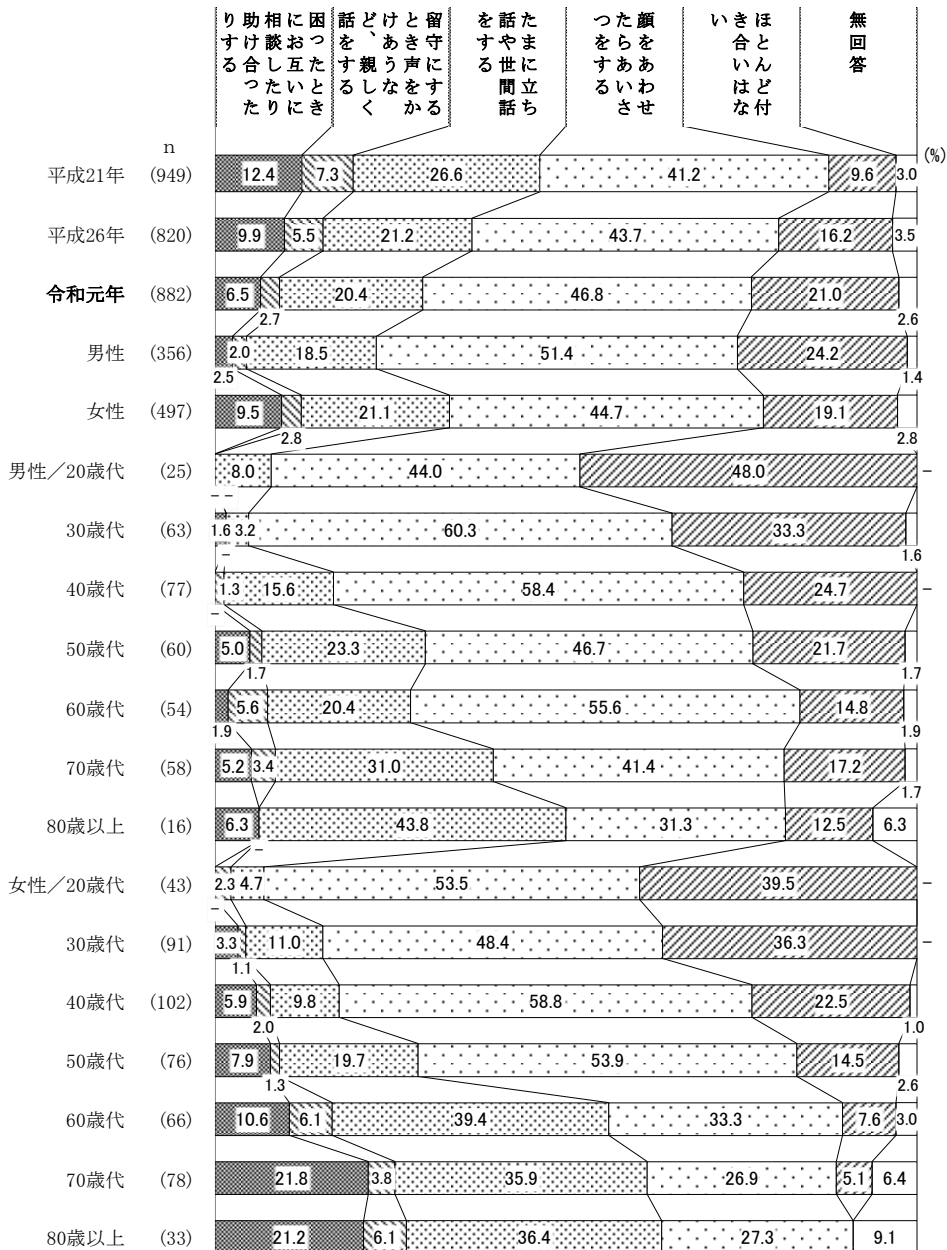
問45 あなたは、どの程度近所付き合いをしていますか。(〇は1つ)

近所付き合いの程度は、「顔をあわせたらあいさつをする」が46.8%で最も高く、「たまに立ち話や世間話をする」が20.4%、「困ったときにお互いに相談したり助け合ったりする」が6.5%となっている。一方、「ほとんど付き合いはない」は21.0%となる。

平成26年との比較で見ると、「ほとんど付き合いはない」は増加傾向にある。

性別で見ると、「困ったときにお互いに相談したり助け合ったりする」は女性の方が男性よりも7.0ポイント高く、「顔をあわせたらあいさつをする」「ほとんど付き合いはない」は男性の方がそれぞれ6.7ポイント、5.1ポイント高くなっている。

性/年代別で見ると、「困ったときにお互いに相談したり助け合ったりする」は、女性では概ね年齢が上がるほど高くなっており、70歳以上では2割を超えてとなっている。一方、「ほとんど付き合いはない」は男女ともに20～30歳代で高く、男性の20歳代で5割近くとなっている。



(2) 地域活動への参加状況

問46 あなたは、現在、以下のような活動に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。(それぞれ○は1つ)

地域活動の参加状況についてきいたところ、“スポーツ等のサークル活動”への参加状況は、「現在、参加している」は12.2%で、「現在は参加していないが、今後参加したい」は24.5%となっている。一方、「今後も参加するつもりはない」が55.8%となっている。

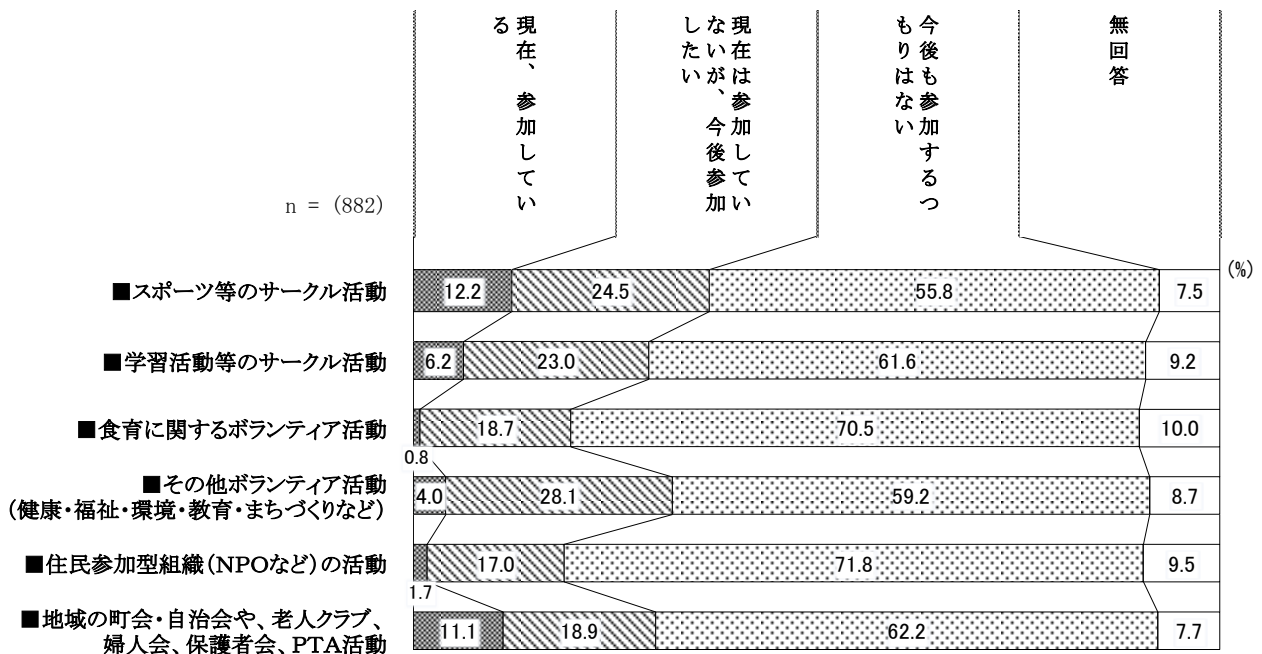
“学習活動等のサークル活動”への参加状況は、「現在、参加している」は6.2%で、「現在は参加していないが、今後参加したい」は23.0%となっている。一方、「今後も参加するつもりはない」が61.6%となっている。

“食育に関するボランティア活動”への参加状況は、「現在、参加している」は0.8%で、「現在は参加していないが、今後参加したい」は18.7%となっている。一方、「今後も参加するつもりはない」が70.5%となっている。

“その他ボランティア活動”への参加状況は、「現在、参加している」は4.0%で、「現在は参加していないが、今後参加したい」は28.1%となっている。一方、「今後も参加するつもりはない」が59.2%となっている。

“住民参加型組織”への参加状況は、「現在、参加している」は1.7%で、「現在は参加していないが、今後参加したい」が17.0%となっている。一方、「今後も参加するつもりはない」が71.8%となっている。

“地域の町会・自治会や、老人クラブ、婦人会、保護者会、PTA活動”への参加状況は、「現在、参加している」は11.1%で、「現在は参加していないが、今後参加したい」は18.9%となっている。一方、「今後も参加するつもりはない」が62.2%となっている。

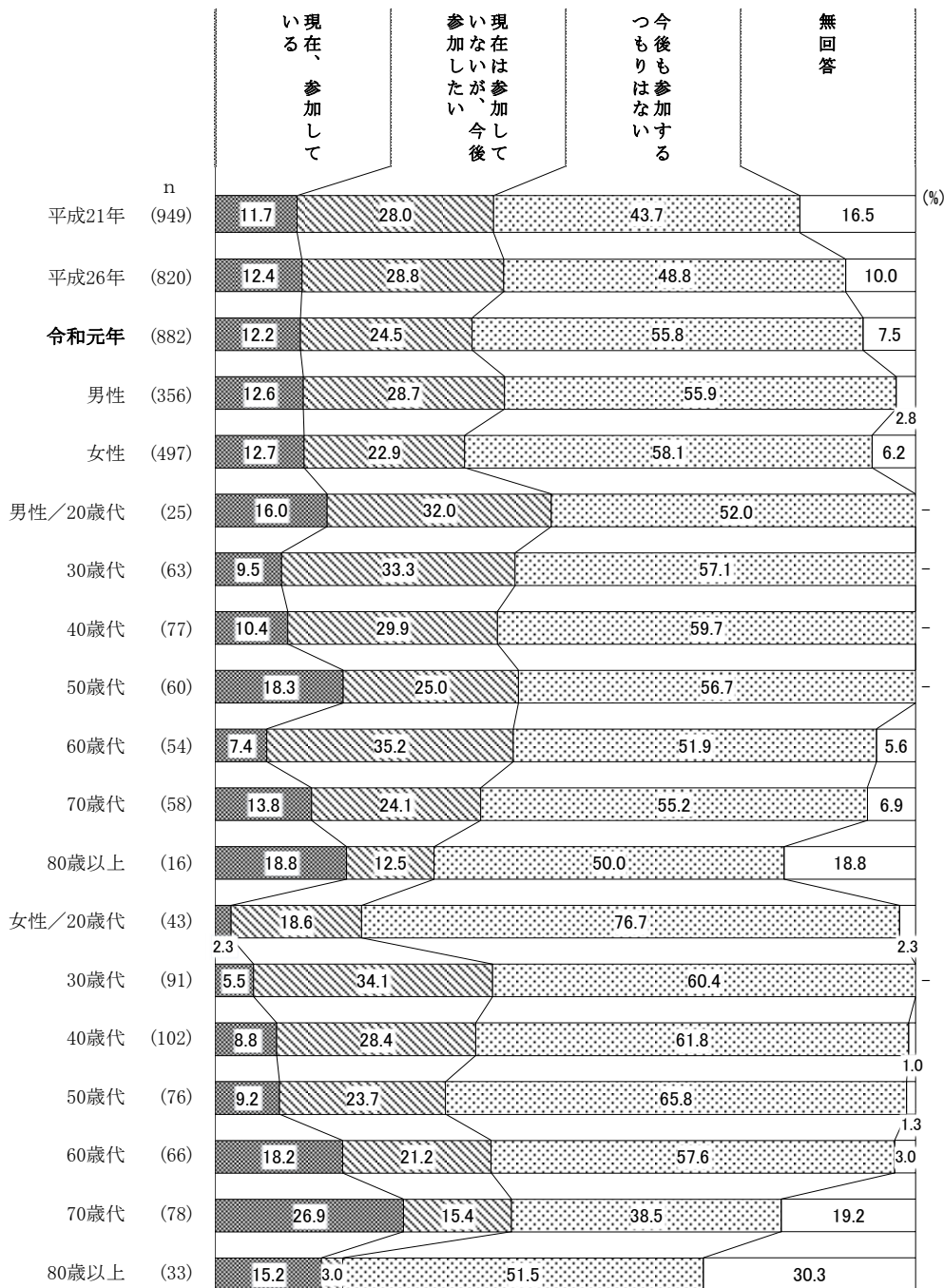


■スポーツ等のサークル活動

平成26年との比較で見ると、「今後も参加するつもりはない」は7.0ポイント高くなっている。

性別で見ると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は男性の方が女性より5.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は、男性の60歳代、女性の30歳代で3割台半ばと高くなっている。一方、「今後も参加するつもりはない」は、女性の20歳代で8割近く、50歳代で6割台半ばと高くなっている。

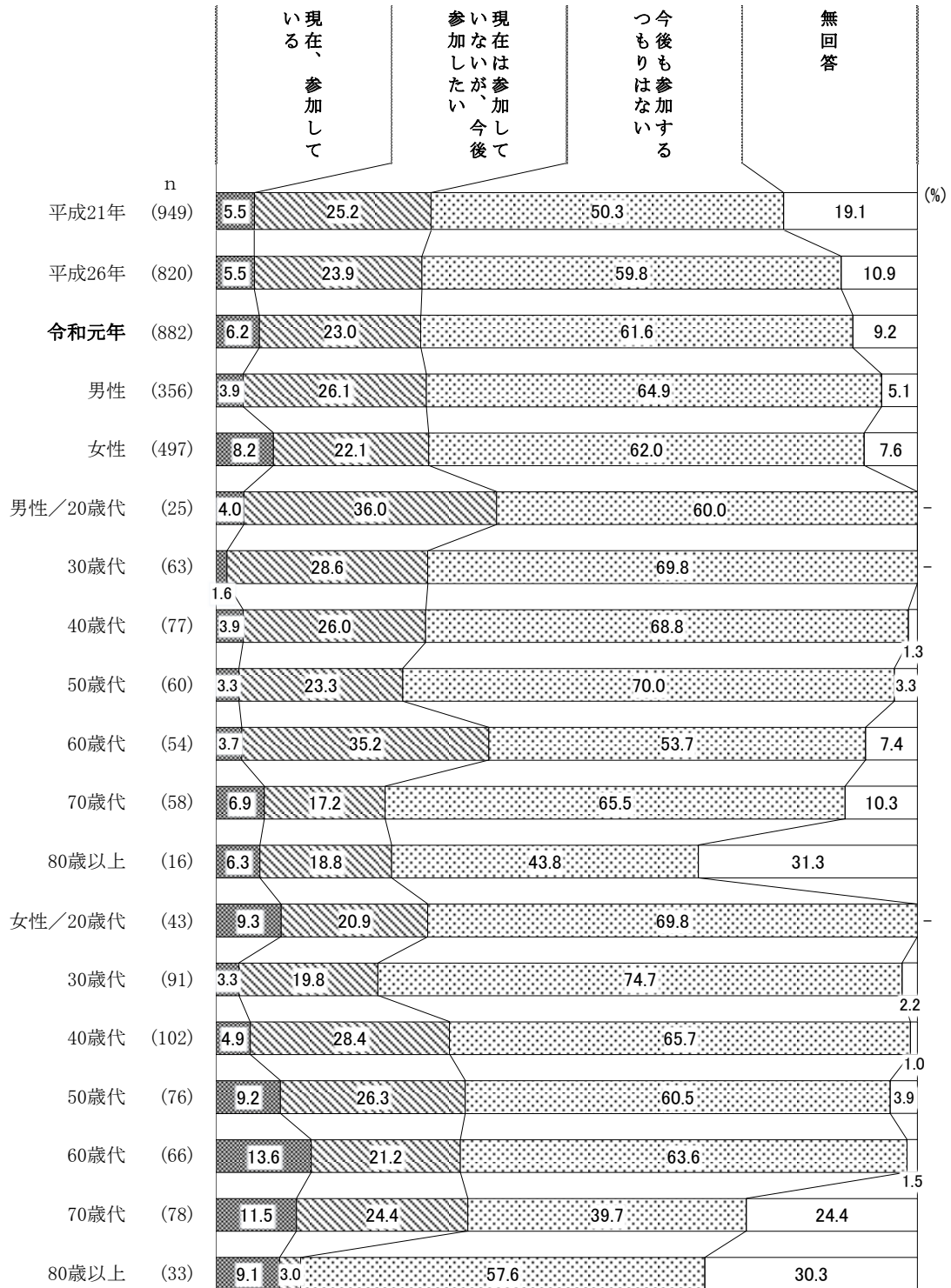


■学習活動等のサークル活動

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

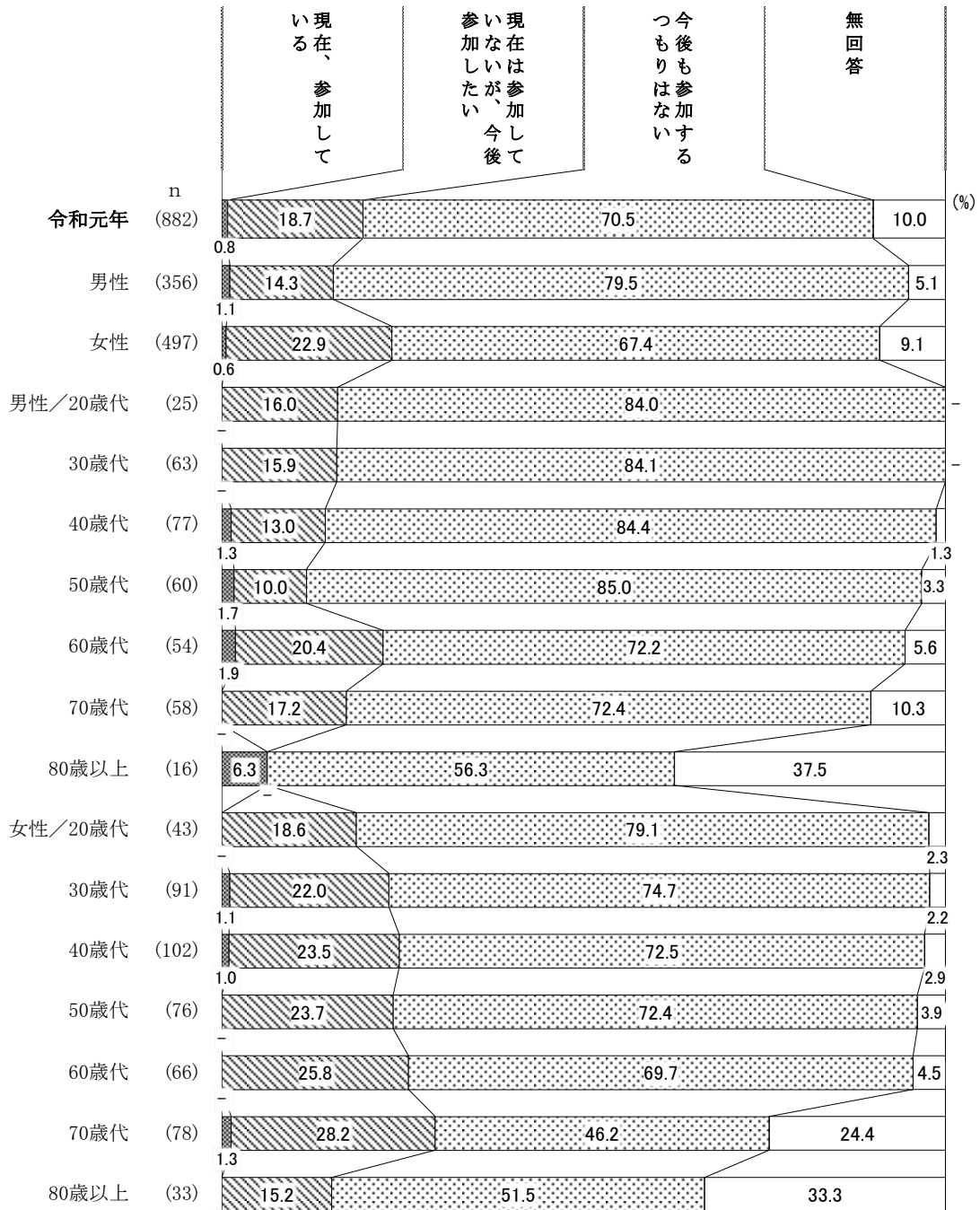
性／年代別でみると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は、男性の20歳代と60歳代で3割台半ばと高くなっている。一方、「今後も参加するつもりはない」は、女性の30歳代が7割台半ばと最も高くなっている。



■食育に関するボランティア活動

性別で見ると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は女性の方が男性より8.6ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「今後も参加するつもりはない」は、男性の20～50歳代で8割台半ばと高くなっている。

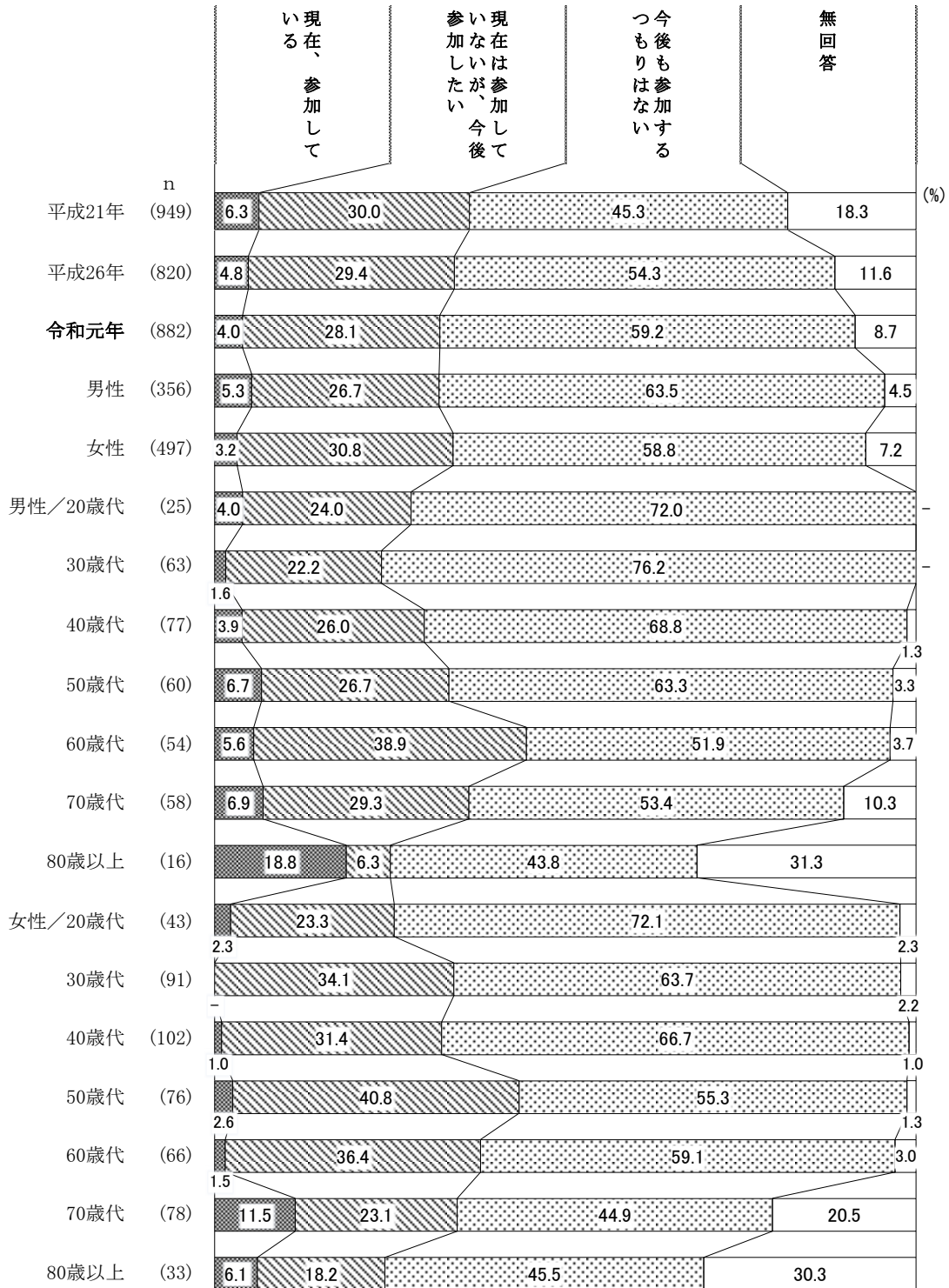


■その他ボランティア活動（健康・福祉・環境・教育・まちづくりなど）

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でも、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は、女性の50歳代が4割超えと最も高く、男性の60歳代で4割近くとなっている。一方、「今後も参加するつもりはない」は、男性の30歳代が7割台半ばと最も高く、男女とも20歳代で7割を超えている。

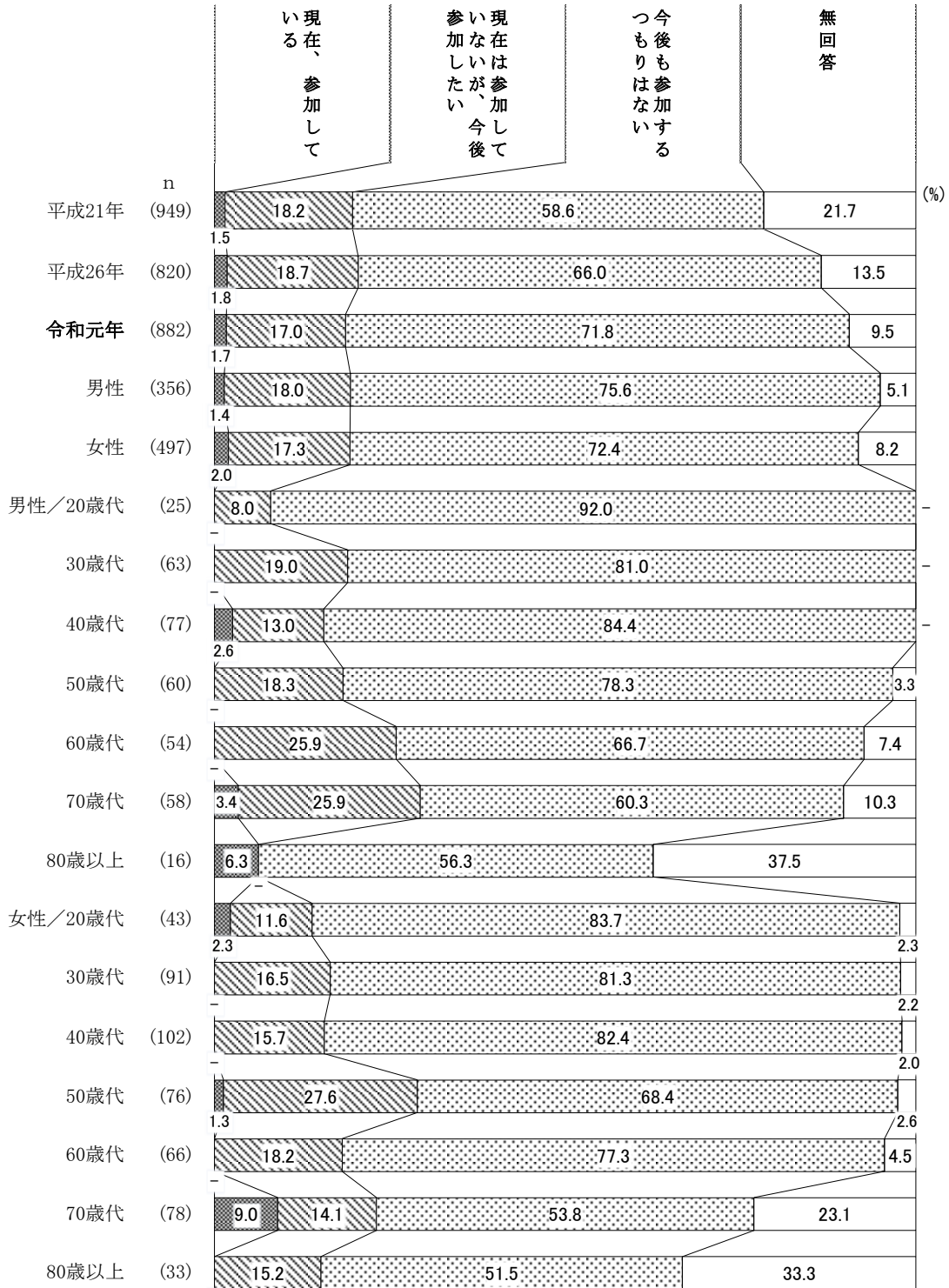


■住民参加型組織（NPOなど）の活動

平成26年との比較で見ると、「今後も参加するつもりはない」は5.8ポイント増加している。

性別では、特に大きな違いはみられない。

性／年代別で見ると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は、女性の50歳代で3割近く、男性の60～70歳代で2割台半ばとなっている。一方、「今後も参加するつもりはない」は、男女とも20～40歳代で高く、特に男性の20歳代は9割を超える。

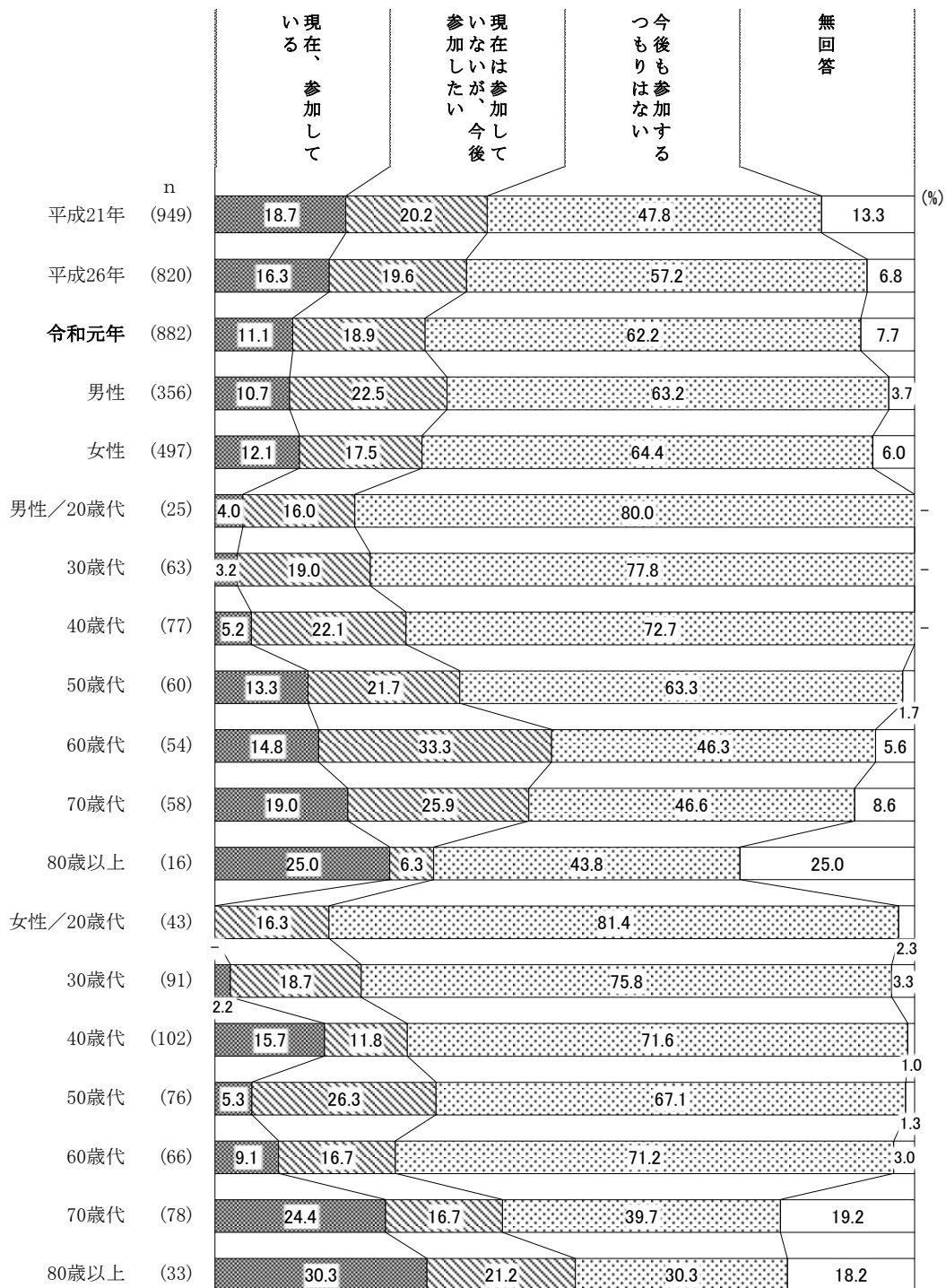


■地域の町会・自治会や、老人クラブ、婦人会、保護者会、PTA活動

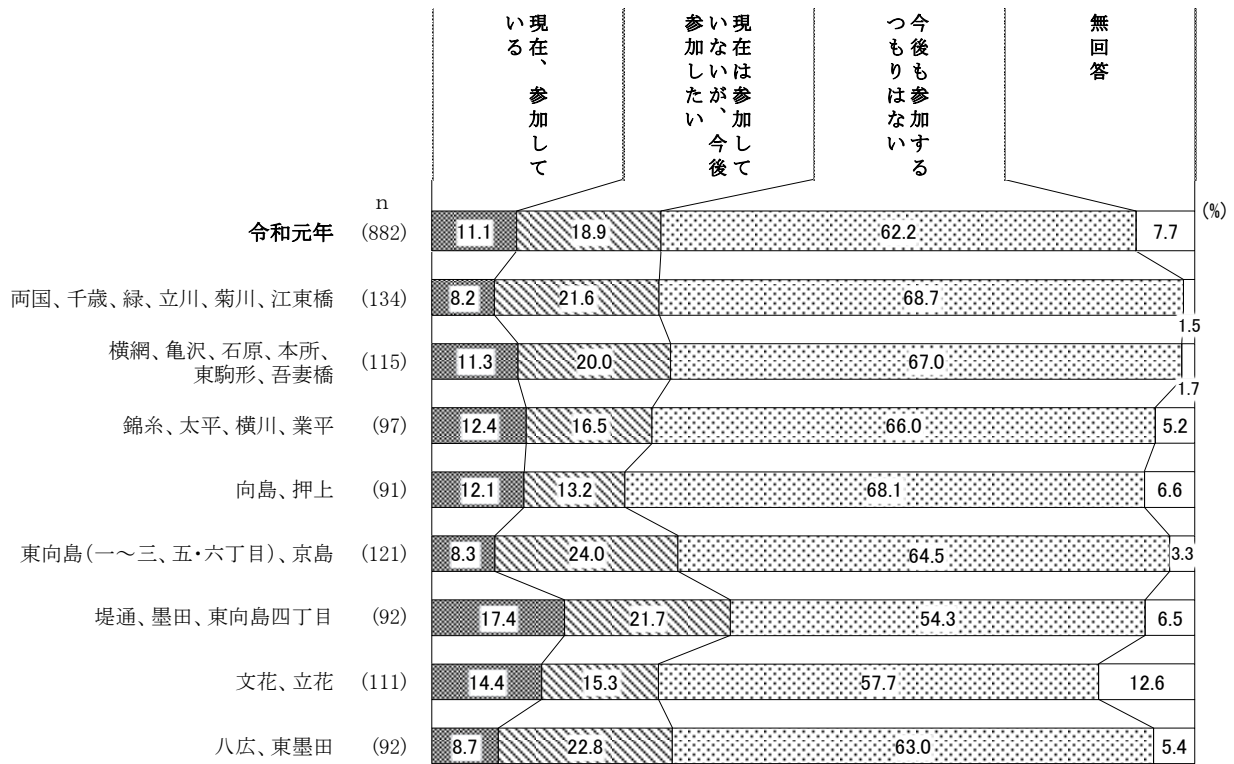
平成26年との比較でみると、「今後も参加するつもりはない」は5.0ポイント増加し、「現在、参加している」は5.2ポイント減少した。

性別でみると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は男性の方が女性より5.0ポイント高くなっている。

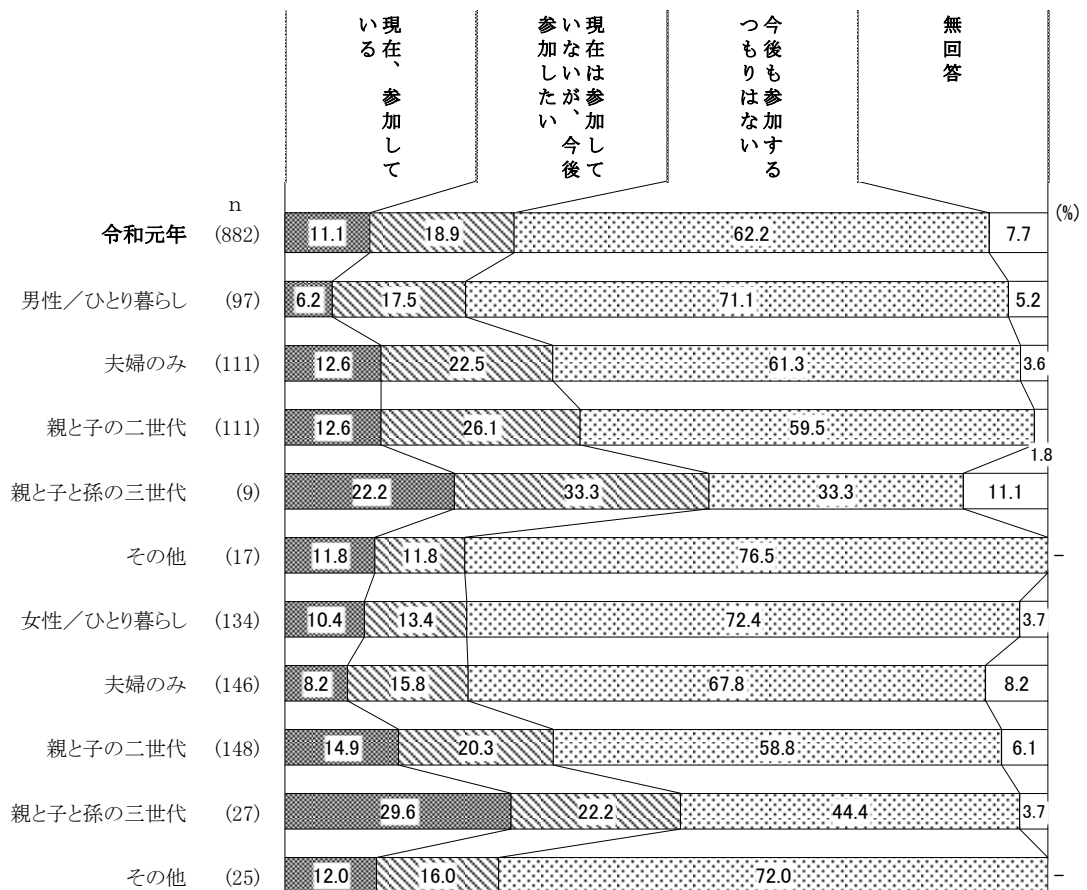
性／年代別でみると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は、男性の60歳代で3割台半ばと最も高くなっている。一方、「今後も参加するつもりはない」は、男性の20～40歳代、女性の20～40歳代及び60歳代で7割以上と高くなっている。



地区別でみると、「現在、参加している」は“堤通、墨田、東向島四丁目”で2割近くと比較的高くなっている。



性別／世帯構成別でみると、「現在は参加していないが、今後参加したい」は家族構成員が多いほど割合が高くなる傾向にある。



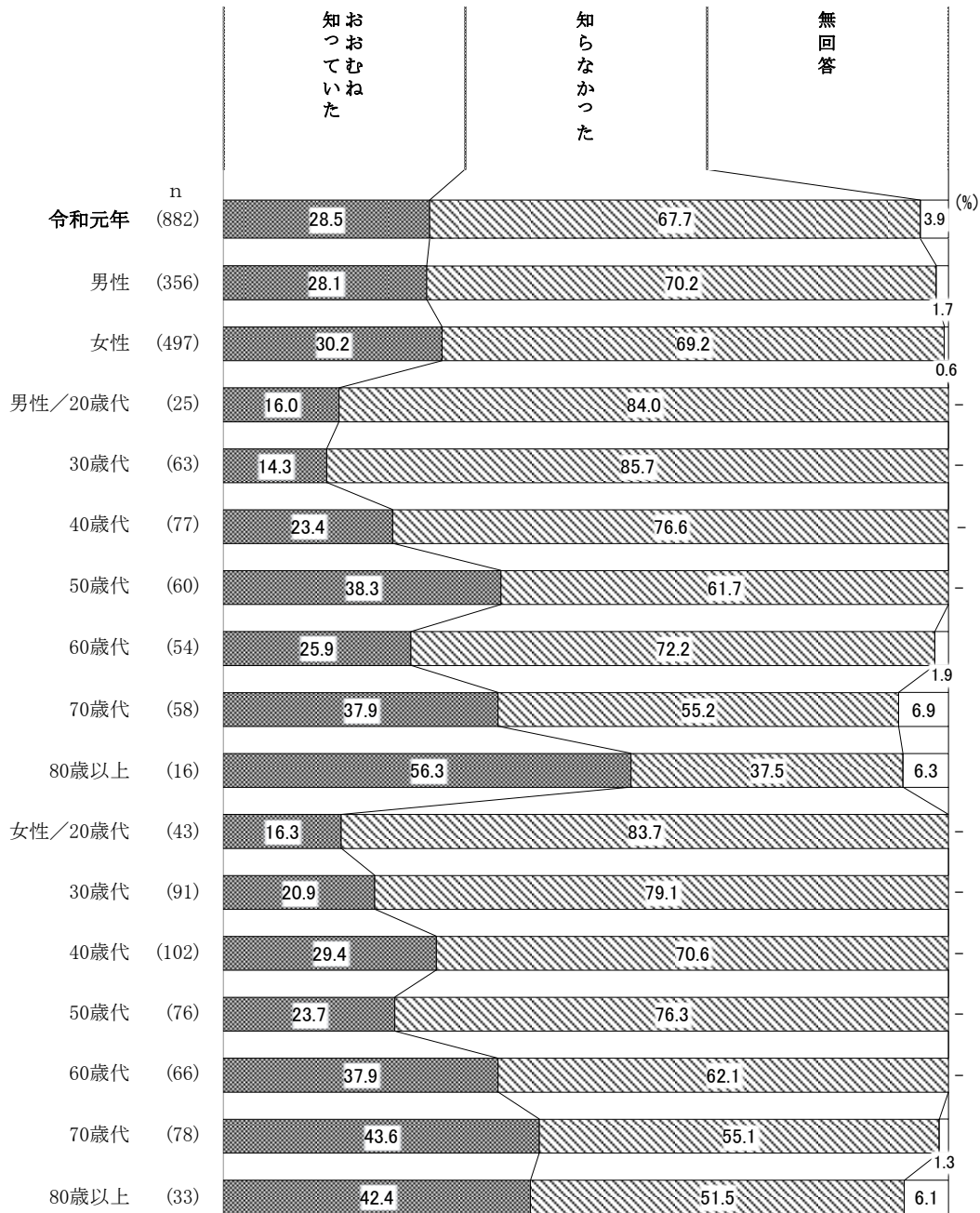
(3) 区の災害時の医療救護活動の認知度

問47 区の災害時の医療救護活動についておたずねします。
あなたは、区の災害時の医療救護活動について知っていますか。(〇は1つ)

区の災害時の医療救護活動の認知度は、「いいえ」が67.7%と高くなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

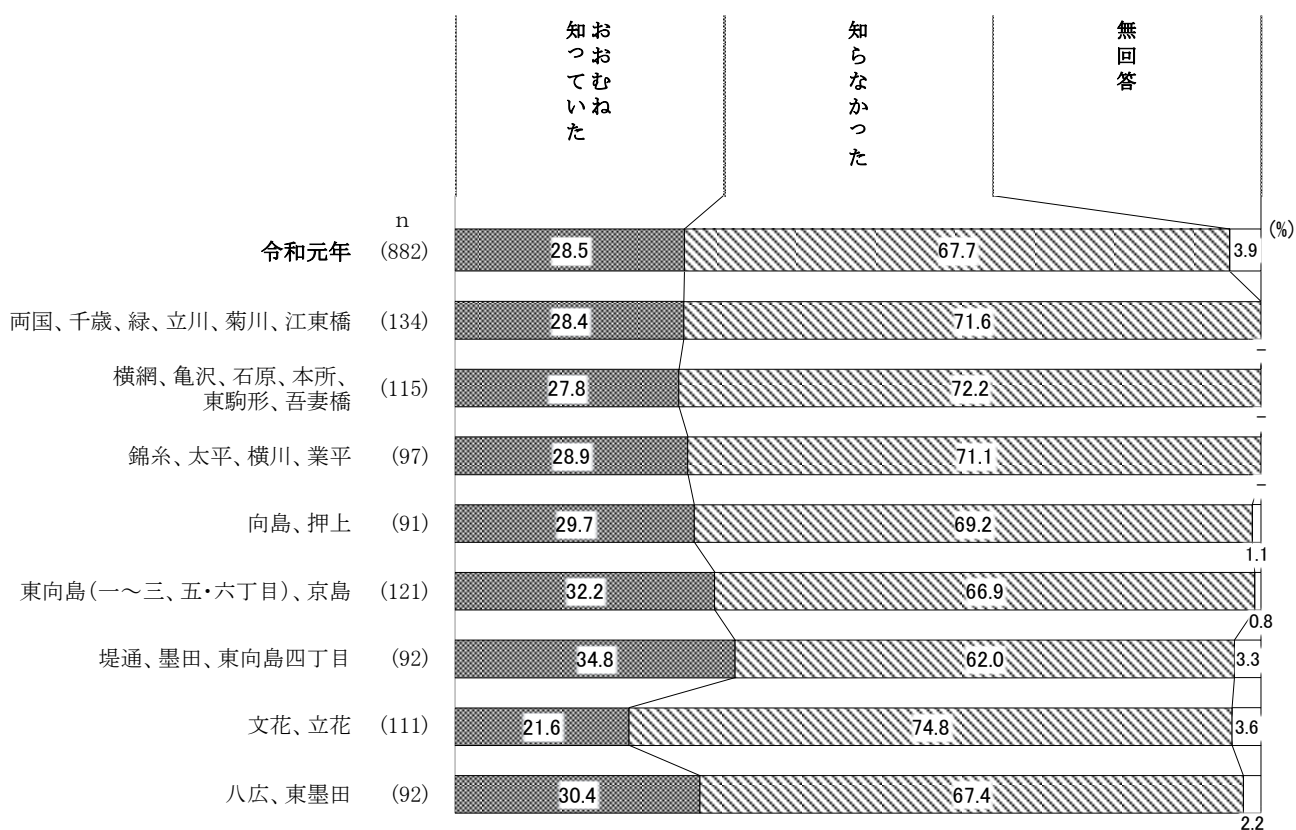
性/年代別について、「知らなかった」は男女とも20～30歳代で8割近くから8割台半ばと高くなっている。



【災害時の医療救護活動とは…】

大地震等の災害が発生した場合、発災直後から72時間までの「超急性期」は、区内の救急指定病院に「緊急医療救護所」を開設し、負傷の程度で傷病者を振り分け（トリアージ）、重症者や中等症患者は病院の中で、軽症者は近接地の公共施設等に開設する医療救護所で応急手当を行います。

地区別でみると、「知らなかった」は“文花、立花”が7割台半ばと最も高くなっている。



11 子どもの健康について

(1) たばこの害等について子どもと話した経験

問48 あなたは、お子さんと以下のことについて話をした経験がありますか。

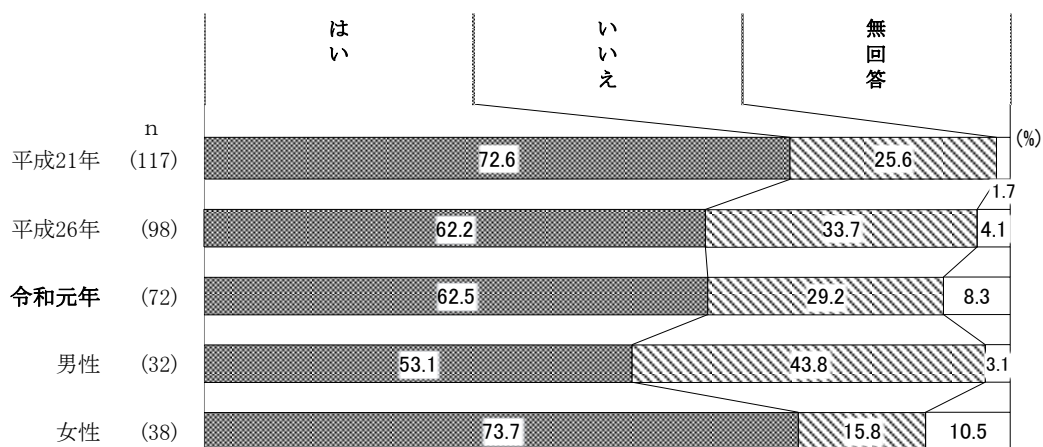
(それぞれ〇は1つ)

■たばこの害

子どもと“たばこの害”について話した経験があるかについては、「はい」が62.5%と高く、「いいえ」は29.2%となっている。

平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。

性別でみると、「はい」は女性の方が男性より20.6ポイント高くなっている。

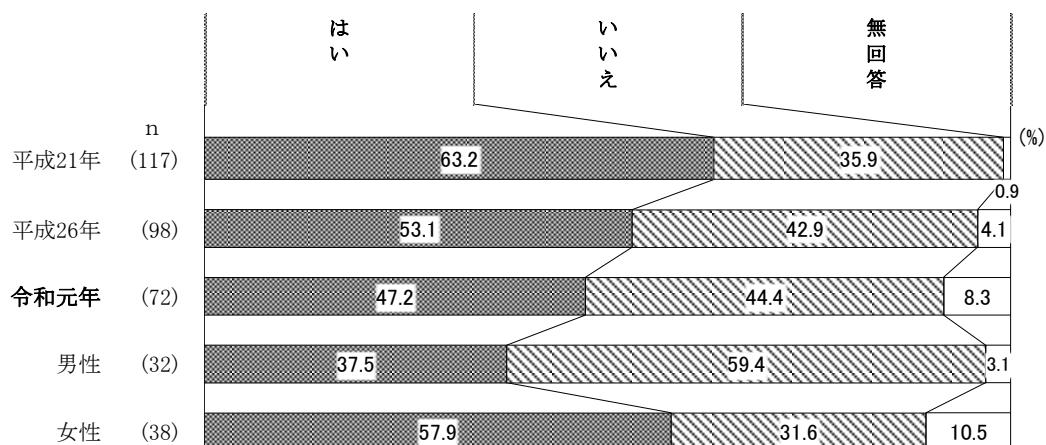


■アルコールの害

子どもと“アルコールの害”について話した経験があるかについては、「はい」が47.2%、「いいえ」は44.4%となっている。

平成26年との比較でみると、「はい」は5.9ポイント減少した。

性別でみると、「はい」は女性の方が男性より20.4ポイント高くなっている。

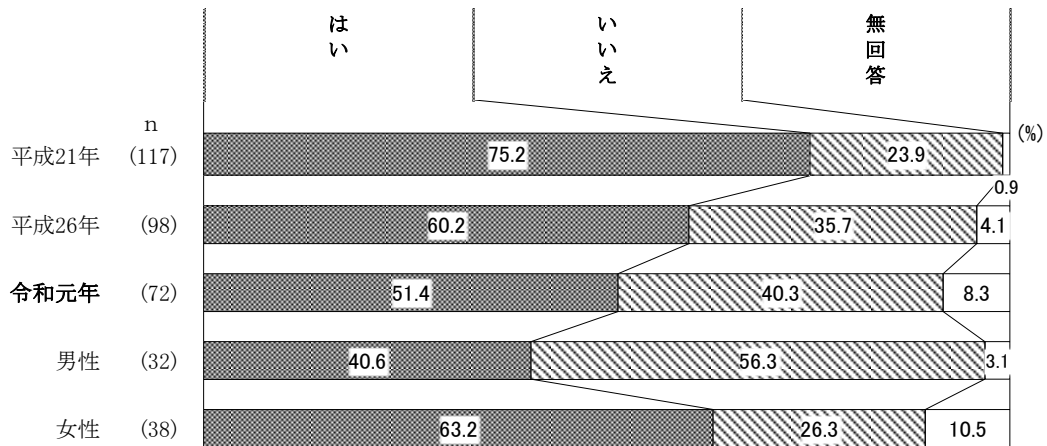


■薬物の害

子どもと“薬物の害”について話した経験があるかについては、「はい」が51.4%、「いいえ」は40.3%となっている。

平成26年との比較で見ると、「はい」は8.8ポイント減少した。

性別で見ると、「はい」は女性の方が男性より22.6ポイント高くなっている。

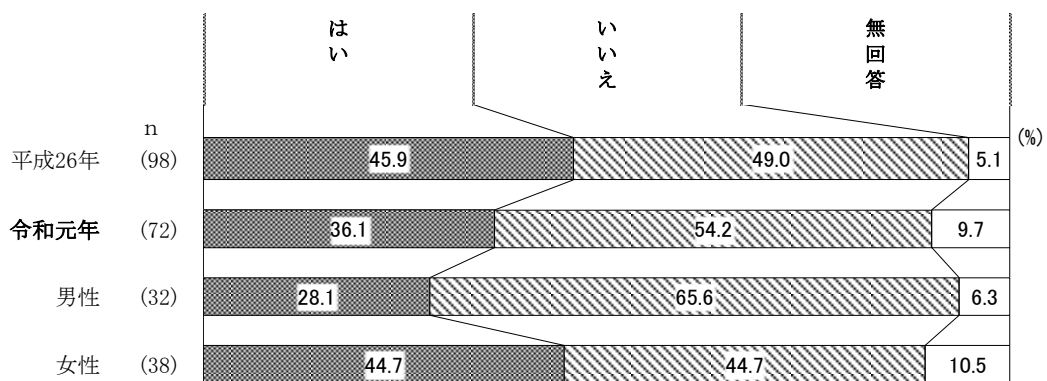


■がん

子どもと“がん”について話した経験があるかについては、「はい」が36.1%、「いいえ」は54.2%と高くなっている。

平成26年との比較で見ると、「はい」は9.8ポイント減少した。

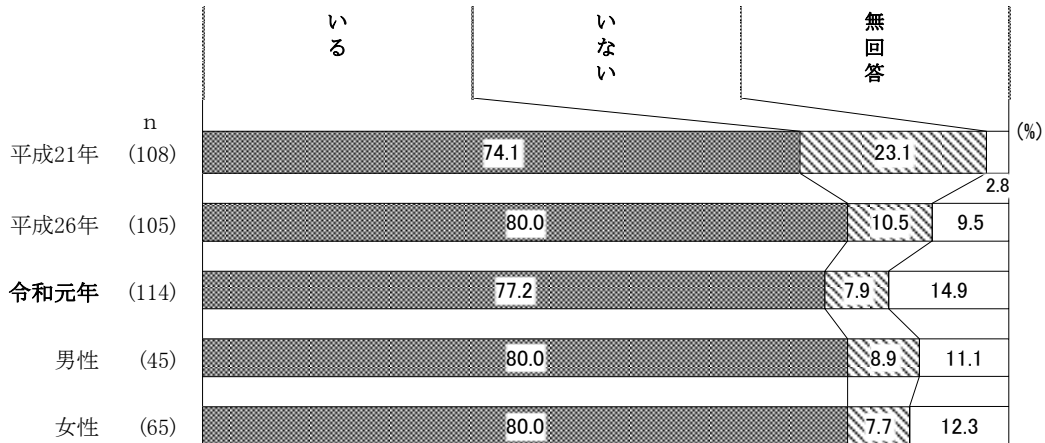
性別で見ると、「はい」は女性の方が男性より16.6ポイント高くなっている。



(2) 子どものかかりつけ医の有無

問49 あなたのお子さんには、かかりつけ医がいますか。(○は1つ)

子どものかかりつけ医が「いる」は77.2%と高く、「いない」は7.9%となっている。
平成26年との比較では、特に大きな違いはみられない。
性別でも、特に大きな違いはみられない。

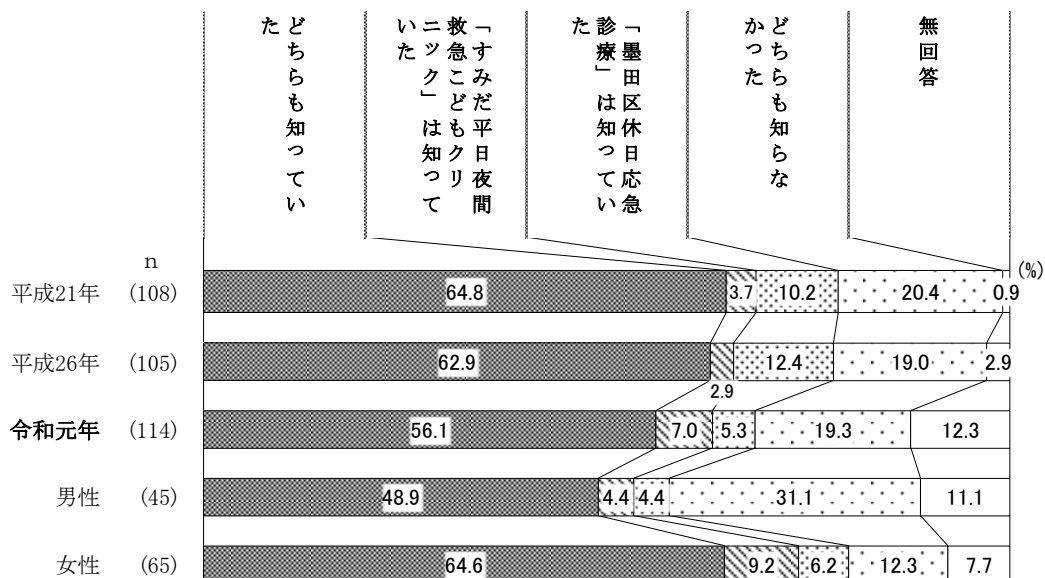


(3) 平日夜間救急・休日応急診療の認知度

問50 墨田区では、「すみだ平日夜間救急こどもクリニック」や「墨田区休日応急診療」を行っています。あなたは、これらのことを知っていましたか。(○は1つ)

墨田区で『すみだ平日夜間救急こどもクリニック』や『墨田区休日応急診療』を行っていることについて、「どちらも知っていた」が56.1%で最も高くなっている。一方、「どちらも知らなかった」が19.3%である。

平成26年との比較で見ると、「どちらも知っていた」は6.8ポイント減少した。
性別で見ると、「どちらも知っていた」は女性の方が男性より15.7ポイント高くなっている。



12 健康づくりに関する意見、行政への要望について

(1) 健康づくりに関する意見、行政への要望

問51 健康づくりに関するご意見、行政への要望等ご自由にお書きください。

ご意見を自由に記入していただいたところ、延べ201件の貴重な意見をいただいた。

ここでは、意見や要望を分類し、その内容別に記載した。一人の回答が複数の内容に渡る場合には、複数回答として、それぞれの内容として数えている。

(計：201件)

1. 環境	35
○禁煙に、歩きたばこ禁止	25
○喫煙所の工夫、分煙化	5
○道路、河川	3
○その他 騒音・臭気、禁煙に予算使い過ぎ	2
2. 健診・検診	34
○無料、低額で	10
○対象者を広げる、種目を増やす	9
○方法の変更、追加	7
○実施回数を増やす	6
○健診・検診時の対応に問題あり	2
3. 運動施設、器具	28
○施設が少ない、増やす	14
○施設の整備	6
○器具、遊具を増やす	4
○設置場所不便	2
○安く利用できるようにする	2
4. 健康イベント、サークル	21
○健康イベントの開催	13
○スポーツサークル、教室を要望	8
5. 広報、情報提供	18
○検診案内希望	5
○広報方法の再考	5
○取組、イベントのPR	5
○その他 緊急時の対応法、救急の病院情報、小児専用の眼科	3

6. 現状の訴え	16
○時間がない	4
○健康面の不安	3
○精神面の不安	3
○経済的不安	2
○その他 高血圧、独居、高齢、就労	4
7. 医療、保健	15
○医療費が高い	6
○保険適用範囲の拡大	3
○待ち時間長い、待合室狭い	2
○保険料高い	1
○その他 国保の請求、補助金、病院での門前払い	3
8. 健康意識、心がけ	11
○運動面	6
○食事、生活面	2
○その他 健康は自己管理	3
9. その他	23
○具体的な取組提案、課題	11
○感謝、満足	6
○その他 行政への期待、アンケートに関して、税金の使い方等	6